2021年度

「学生による授業評価アンケート」

報　告　書

立教大学

2022年　9月

これまでに発行した『学生による授業評価アンケート報告書』は、大学教育開発・支援センターの
Web サイトより閲覧いただけます。下記 URL または QR コードへアクセスし、
「刊行物・情報公開」から「学生による授業評価アンケート報告書」を選択してください。

https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html

はじめに

総長　西原　廉太

立教大学の「学生による授業評価アンケート」は 2004 年度から開始され、すでに 17 年に亘って運用されています。この間、「学生による授業評価アンケート」は進化を重ねていますが、その基本的な目的は変わることはありません。それは、教員が自らの授業改善に資するための基礎的データであり、学生の授業への参与度、姿勢、期待を知るための手がかりであることはもちろん、学生たちがアンケートに回答することを通して、学生に授業履修への積極性と責任意識の醸成を促すこと、また、さらには、学部・学科のカリキュラムの有効性を測定するための資料であり、ひいては、立教大学のあらゆる教学改革方針・施策を決定していくための重要なデータとしての役割が期待されています。

2021 年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延は収束せず、本学の授業運営も大変な困難を強いられましたが、教職員のみなさんのご尽力の結果、年間を通しての授業運営ができました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

現在、部長会におきましても、コロナ後における良質な遠隔授業の活用・展開がいかに可能かを継続的に検討しています。各授業形態（対面、対面ミックス、オンライン、オンデマンド）の教育効果を検証し、今後のプロアクティブな授業方法についてさまざまな角度から議論していますが、その際に、この「学生による授業評価アンケート」から多くの重要な論点が抽出されることになります。

本学の「学生による授業評価アンケート」を特徴づけるものの一つは、その質問項目が、学生自身の授業への取り組み方、学生が授業から得られたものを中心に問うていることです。この質問項目の背景には、大学の授業というものが、教員からの一方的な知識の伝達ではなく、教員と学生のインタラクティブな営みであるという思想があります。私たちの授業とは、教員と学生が、知の礎の上に立ちながら、共に対話し、新たな意味や価値の発見に開かれていくダイナミックな現場です。そこでは教員もまた、「教えられ、変えさせられ、強められる」ことに気づかされます。

本報告書が、教職員のみならず、とりわけ授業の最も重要な当事者である学生のみなさんに読んでいただくことを期待しています。

目　次

はじめに

１．本学における「学生による授業評価アンケート」について　1
　１－１　目的　1
　１－２　「報告書」作成の基本的な考え方　2
　１－３　「所見票」について　3
　１－４　実施科目の選定方針　4
　１－５　回答結果の全学的な活用に向けて　5

２．授業評価アンケートの実施概要　7
　２－１　実施方式　7
　２－２　設問項目　7
　２－３　各学部等の科目選定方針　１１
　２－４　実施科目数　１３
　２－５　実施期間　１３
　２－６　回答者数　１４
　２－７　「所見票」の公開　１４
　２－８　任意実施科目　１４

３．科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック　１５
　３－１　科目担当者　１５
　３－２　学部等　１５

４．学部等総評　２０
　４－１　文学部　２１
　４－２　経済学部　２４
　４－３　理学部　２６
　４－４　社会学部　２８
　４－５　法学部　３１
　４－６　経営学部　３４
　４－７　異文化コミュニケーション学部　３７
　４－８　グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター　３９
　４－９　観光学部　４１
　４－10　コミュニティ福祉学部　４４
　４－11　現代心理学部　４６
　４－12　全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目　４９
　４－13　全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目　５７
　４－14　学校・社会教育講座　６４

５．2021 年度のまとめと今後の展望　６８

６．2021 年度集計データ（資料編）　７０
　６－１　回答者数・回答率　７０
　６－２　学部等別設問項目別平均値・回答割合　７１

１．本学における「学生による授業評価アンケート」について

まず、本項では、本学における「学生による授業評価アンケート」の実施概要について取り上げる。

前半の１－１「目的」、１－２「『報告書』作成の基本的な考え方」、１－３「所見票について」では、2004 年度の「学生による授業評価アンケート」の開始以来、これまで継承している本アンケート実施にあたっての基本的理念および方針について、同年度の「報告書」における当該項目の記載内容を転載することによって確認する。

後半の１－４「実施科目の選定方針」、１－５「回答結果の全学的な活用に向けて」では、これらの基本的理念および方針を受けて、2004 年度から当該年度までのアンケート実施の経過や変更点について記載する。

１－１　目的

本学における全学規模の学生による授業評価アンケートは、2002 年 7 月 10 日に総長に提出された「全学 FD 検討委員会答申」に始まる。その中で、本学にとっての最重要 FD 課題として次の 3 点が挙げられている。第一に「教員における授業力の向上」、第二に「カリキュラム編成の合理化」、第三に「成績評価の厳正化」である。そして、その中でも緊急性がもっともあるとされたのが第一の課題であり、その中で「授業力向上に向けての具体策」のひとつとして挙げられていたのが「学生による授業評価の制度的実施」である。それを受けて、2002 年 12 月 18 日付け文書「FD について―学生による教育評価アンケートの 2003 年度実施に当たって―」の中で総長は、敢えて「教育評価」という言葉を用い、「個々の科目の授業やその担当教員への評価をこえて、広く本学の教育について、学生の評価を参照したい」と述べ、「学生による教育評価アンケート」をできる限り早期に実施したいとの方針を明らかにした。

それを受けて直後の 2002 年 12 月 21 日には早くも全学教務委員会 FD 専門部会の第 1 回部会が招集され、年度をまたいで検討が続けられた。その過程で、2003 年度実施は見送られ2004年度実施を目標とすること、施設その他の教育条件一般を問うアンケートの前に、授業そのものに目標を絞って問うことなどの合意が形成され、「学生による授業評価アンケート」を行うことが決まった。そして、具体的アンケート項目作成作業が開始され、他大学のものをも参照しつつも、三つの独自案にまとまってゆき、並行して行われていたアンケートの目的や実際の実施方法などの検討結果とも連動しながら、最終的にひとつの案に集約されていった。その結果は部長会に報告され、了承を得て、その後、各学部教授会とのやり取りがあり、2003 年の秋に 2004 年度前期から「学生による授業評価アンケート」を実施することが正式に決定した。そして、2004 年度 4 月から「学生による授業評価アンケート実施委員会」が立ち上げられ、前期と後期に実施された。

その実施の目的は、部会における議論の結果、以下の点にあると考えられるにいたった。

① 教員が自らの授業改善を目指す自己研修の資料を得る。

② 教員同士が授業に関して相互研修をおこなう機会を提供する。

③ 学生の学習姿勢を知るための資料とする。

④ 学生の授業への期待のありかを知る資料を得る。

⑤ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
⑥ 学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る。
⑦ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。
以上である。

要するに、本学の「学生による授業評価アンケート」は端的に言って、個々の教員による授業を、学生がより充実して学習を進め大学としての教育力が今より一層効果的に機能することを目指して改善し、その結果として学部・学科としての教育力をも増進することを唯一の目的とする、ということである。そうして、学生をも巻き込んで、本学が知的に活発で、創造性に富み、常に先進的に新しい知を発信し、それに基づく生き方を常に提案し続ける力を保持することができるようになることを最終目的とする。

それに対して、場合によっては教員の活力を削ぐことになりかねない教員管理の視点は厳しく排除される。大学は教職員と学生が相互に自己管理することを前提に、自由に精神活動をおこなう場である。特定の目的のために教職員ならびに学生を管理し、特定の方向へ向けるべく力を加えることは、大学本来の知的創造力を失わせ、ひいては大学が本来持っているはずの社会的役割を放棄し、その負託に答えられなくなることを意味する。その意味で、この「学生による授業評価アンケート」結果のデータは特定の意図を持って処理され、一律の基準の下に評価されることはない。それゆえに、集計データの統計的処理はアンケート対象になった個々の教員に任されることになった。それが所見票に表現されるのである。

このアンケートは大学としての教育力向上を目的としておこなわれるので、学生の自覚を促すことも期待されている。そのことは、一朝一夕に実現させることは難しいかもしれないが、学生たちの評価アンケート結果に対して、各教員がそれぞれの学問的見識を持って所見票で答え、実際の授業に反映する努力が積み重ねられることによって、徐々に現実化してゆくであろう。現在の大学では学生の自主的活動が必ずしも本来期待されているほど十分でなく、大学生の学校生徒化が進んでいると一般に言われている。その中で、学生の主体的参加が教員との関係を変えるきっかけになることを直接に経験することで、学生の姿勢が変化することを期待したい。

さらに、アンケート結果、所見票が公表されることにより、教職員相互間、あるいは教員と学生との間で切磋琢磨する風潮が広まれば、大学全体として、個々の学問研究と教育の活動に根ざした種々の改善が期待される。カリキュラムはもちろん、組織の運営体制や施設なども、このアンケートを手がかりにその評価の俎上に載せられることになってゆくであろう。

この「学生による授業評価アンケート」が、大学の知的エネルギーを構成している教職員相互の関係や教職員と学生との関係、あるいは学生相互の関係などを揺り動かし、多様な観点から相互に力を及ぼしあう結果になることを、我々は心から期待したい。そして、そのことがやや動脈硬化が進行してきた大学という組織にも再び熱い血を通わせ、教職員も学生も本学に集うことこそがその熱い血の拍動を生み、学問に触れることが楽しくて仕方がないという状況を生み出すことを心から願う。

１－２　「報告書」作成の基本的な考え方

「学生による授業評価アンケート」は調査である限りその結果がまとめられなければな

らない。我々はそれを報告書という形で世に問う。この報告書はアンケート対象になった個々の授業が１－１で述べられた目的に沿って学生によって評価された結果を総体として、学部・学科ごとに、そして大学全体として、その教育力を評価し、成果の上がっていることに関してはその成果の意味を明らかにし、さらにその成功を維持するための方策を考え、改善が必要なことに関しては、その原因を究明し、その克服のための方法を構築する。そして次回のアンケートにその改善努力の成果を問う。

この報告書の構成は以下のとおりになっている。

まず、（１）すでに述べたとおりこのアンケートの目的を明らかにする。その次に、（２）その目的に沿ったアンケート実施の概要を報告する。その上で、（３）統計処理上の技術的方針について、我々の考え方を明示し、データの性格を規定し、将来の調査をも視野に入れた分析方針を提示する。そして、（４）全学的な総評をおこなう。最後に（５）学部やその他の教育組織ごとの総評をまとめる。以上である。

この報告書はあくまで１－１のアンケートの目的に謳われている⑥学部・学科としてのカリキュラムの有効性を測定するための資料、および⑦大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を提供するためにおこなわれる。したがって、この報告書には個々の授業やその担当者、あるいはある学科の科目として特定できるような記述は記載されない。

それと同時に、この作業は全体としての③学生の学習姿勢を知るための資料、および④学生の授業への期待のありかを知る資料を得ることにつながる。授業に参加する学生たち自身の勉強に対する姿勢もアンケート項目に入っているので、それらについてはこの報告書の中で、各所で触れられることになるだろう。

これらの目的達成を検証することを狙い、我々は報告書を作成する。ちなみに目的の①と②は次に述べられる所見票に示されるだろう。

１－３　「所見票」について

個々の科目のアンケート結果は、同じ科目の将来の開講の際に生かされるはずである。しかし、一方ではアンケートに答えた学生たちには、将来の授業では直接的にフィードバックすることはできない。そこで、個々の科目のアンケート結果についても、何らかの形で少なくとも当該学生たちには公開される必要がある、と我々委員会は考えた。その際には、単純にアンケート項目の集計結果だけを公開する方法と、それに対する教員の所見をも添えて公開する方法が考えられる。

我々は個々の科目担当者に、自分の科目についての自己点検・評価という意味でアンケート結果のデータを読んでもらい、「授業評価に対する担当教員の所見」、「自由記述欄に対する担当教員の所見」、「改善に向けた今後の方針」を書いてもらうこととした。この３つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果を帯グラフに表したデータを付したものを「所見票」と称した*[1]。そして、この所見票を学生に公開することにした。

所見票を書くことはアンケート対象教員にとって負担にはなる。しかし、我々は敢えて対象となった教員全員に所見票作成を依頼した。なぜならば、自分の授業についての学生による評価が出たならば、それについての対処を明確に行い、アンケートに協力してくれた学生たちに直接回答することも、授業担当者である教員の義務だと、我々は考えたからである。所見票はそのすべてが、学生に対して学内で公開されることになる。

所見票の狙いは以下の点にある。

① 教員がアンケート結果についてそれを直視し、自らの見解を発表する場を与える。

② 学内で公表されることによって、学生に直接回答する機会を与える。

③ アンケートに含まれる自由記述についてはデータ化できないので、教員の直接的コメントを通してその内容を明らかにすることを求める。

④ 改善に向けた明確な決意と工夫を書くことにより、次回のアンケートとの比較を行い易くし、具体的授業改善の実現を可能にする。

以上である。

①については、教員側にも、もし学生からいわれのない不評や批判があった場合には、弁明する機会が欲しいとの声もあった。また、所見票を書けば、アンケート結果をつぶさに直視し、それに向き合って、自分に取り入れる契機とすることができる。さらに、データの多様な集計を当該教員に任せ、教員の必要に応じた分析を行い、納得の行く分析結果を出してもらうことにも意を注いだ。所見票はその結果を発表する場でもある。

②については、学生に対する直接回答であることを重視し、教員が自らの見解を自由に率直に表明しやすくするという趣旨で、公開は学内に限り、学生の便宜を考えて図書館に配置することにした*[2]。

③については、自由記述が単純にデータ化できないため、結果すべてを所見票に載せることはできない。また、記述内容によっては書き手が特定される場合もある。そこで、それを読んだ教員の責任でまとめてもらうことにして、教員所見にそのための欄を設けた。

④については、これを書くことでこのアンケートの目的で指摘された教員の自己研修を促すことになる。また、所見集が学内で公開されることから、学生以外にも同僚教員の目に触れる機会もあり、相互研修にもなることが期待される。

以上、所見票はこのようなことを期待して作られたのである。

*[1] 教員執筆項目は 2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、「授業評価に対する担当教員の所見」と「改善に向けた今後の方針」の 2 項目に集約された。このこととアンケートの Web 形式実施に伴い、2020 年度からの所見票は、二つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果のデータを付したものとなっている（p.18 参照）。

*[2] 現在は Web のみで公開

（以上、2004 年度報告書より抜粋。*は追記）

１－４　実施科目の選定方針

本学における「学生による授業評価アンケート」は 2004 年度にスタートし、2006 年度までの当初 3 年間は「講義科目を対象に 1 教員 1 科目」の原則で実施した。これにより、教員個々人の意識が高まり、授業改善の効果が上がったことは、各項目の数値が有意に上昇したことからも明らかである。

2007 年度には、スタート時に確認された目的のうち、「学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る」「大学として教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る」に比重を移し、実施対象科目に一部の演習科目を加えた上で、各学部・学科等の必要性により科目を選定する方式に切りかえた。2008 年度、2009 年度はこの方針を踏襲して実施した。

一方で、「学生による授業評価アンケート」開始当初から、アンケートは単年度ごとにその目的と実施内容を検討・決定するのではなく、数年度単位の中期的な計画に基づいて展開する必要性が指摘されており、その策定に向けて、継続的に議論を行ってきた。

2006 年度には、「1 教員 1 科目の原則による実施は、教員個々人の意識を高め、教員全員が自らの自己研修の資料を得る観点から、少なくとも数年に一度は必要である」との全学的合意がなされた（2007 年 1 月 25 日、部長会）。その後、他大学の実施状況調査を行うとともに、全学教務委員会および教育改革推進会議での学部等からの意見収集ならびに協議を経て、2009 年度の教育改革推進会議（2009 年 11 月 19 日）において、2010 年度以降の基本方針を以下のとおり決定した。

① 授業評価アンケートは毎年実施する。

② 「1 教員 1 科目」の原則による実施は、3 年に一度とする。

③ ②以外の年度は、「学部等の必要性に応じた選定」により実施する。

基本方針決定以降の、科目選定方針は以下のとおりである。2010 年度は定められた基本方針に拠って、実施する初年度となり、上記②の「1 教員 1 科目」の原則により実施した。

・2010、2013、2016、2019 年度：「1 教員 1 科目」

・2011、2012、2014、2015、2017、2018、2020、2021 年度：「学部等の必要性に応じた選定」

授業評価アンケート実施対象科目は、2019 年度まで専門演習、実験、集中講義や実技を伴う科目、全学共通科目の言語系科目を除外してきたが、2020 年度秋学期から「立教時間」による Web 方式を採用したことによって、設問項目の改訂が行われたことや、実施上限科目数、教室内でのマークシート用紙の配布等の制約が解消されたため、これらの除外科目についても含めることが可能となった。

なお、2021 年度の各学部等における科目選定方針については、「２－３　各学部等の科目選定方針（p.11）」を参照されたい。

また、本アンケートはその性質から無記名で行われ、個人が特定される情報は教員・学部に提供しないことを前提としてきたが、2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、履修登録者が 4 名以下の科目は実施対象外とすることを決定した。

１－５　回答結果の全学的な活用に向けて

本学は、従来、１－１に記載した目的に沿い、「学生による授業評価アンケート」の集計結果を教員個人の授業改善や、学部等による FD の基礎資料として活用してきた。しかし、回答データを計量分析し、全学的な FD に活用するには至っていなかった。

そこで、2012 年度 10 月に発足した大学教育開発・支援センター教学 IR 部会では、2015 年度に 2013 年度の回答データを用いた分析を実施し、「教員の授業に対する工夫や努力、たとえば、各回の授業内容を明確に提示するよう意識するなどの取り組みによって、学生の授業や学習に対する意欲は高められる」という知見を得、教育改革推進会議を通じて全学へ報告し、共有した（詳細は、2015 年度報告書に掲載）。

上述の知見を踏まえて、2017 年度に行われた第 1 回「立教大学　教育活動特別賞」の選定にあたっては、2016 年度授業評価アンケートの一部の項目の集計結果を各学部等へ提供

した。各学部等からの候補者の推薦を受けて、最終的に 34 名の方々に賞を授与している。

2018 年度は、受賞者の教育に関する優れた取り組みを共有するために、全学の FD 活動としてシンポジウムを開催した。

そして、2020 年度からは、このような全学の FD 活動をより推し進めていくために「学生による授業評価アンケート」の運営主体について、全学教務委員会の下に組織されていた「学生による授業評価アンケート」実施委員会を廃止とし、全学を対象とした FD・調査を担う大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部の協力を得ながら進める体制へ移行されることになった。これにより、同センターの TL（Teaching & Learning）部会では、本報告書の作成や回答結果を活用した FD プログラムの企画を、教学 IR（Institutional Research）部会では、アンケート実施の企画やデータ集計・分析をそれぞれ担うことになった。

２．授業評価アンケートの実施概要

本報告書において、「学部等」とは、各学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター、全学共通カリキュラム運営センター、学校・社会教育講座を示す。また、学部表示は科目開設学部等を示しており、回答者（学生）の所属ではない。

２－１　実施方式

「立教時間」を用いた Web 方式にて実施した。

２－２　設問項目

Web 方式への実施方式変更に伴い 2020 年度に変更された設問を一部変更し、設問はすべて英語併記とした。

5 段階による評価方式の設問が 4、複数選択回答による設問が 3、数値入力による設問が 1、自由記述による設問が 3 の構成とした（p.8 参照）。設問の中には、必ずしも全科目には該当しないと思われるような設問もあるが、各設問項目の数値は、科目の特徴に照らして各科目担当者の裁量により解釈されるものとしている。

また、学部等によって独自の設問が設定できるよう、1 学部あたり最大で 6 設問を設定できるようにした。2021 年度は、経済学部（5 設問）、理学部（4 設問）、法学部（3 設問）、異文化コミュニケーション学部（3 設問）、現代心理学部（2 設問）、全学共通カリキュラム運営センター（総合系科目 2 設問・言語系科目 5 設問）が学部等による設問項目を設定した（pp.9-10 参照）。

2021 年度「授業評価アンケート」設問項目（全科目共通設問）

数値入力、複数選択の設問以外の選択肢は 5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない、の 5 件法となります。
（英文選択肢）5. Strongly Agree 4.Agree 3.Neither Agree nor Disagree 2.Somewhat Disagree 1.Disagree

Ⅰ　学生の学習姿勢 My participation in this course
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した I actively participated in the lessons.
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に） ⇒数値による入力 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course. ⇒ Fill in how many hours.
Ⅱ　教員の授業改善に向けて To improve instructors' teaching
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった The content of each lesson was clear.
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった The instructor’s way of communicating was easy to understand.
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】 ①配付資料（授業のレジュメなど）、②板書（電子媒体のものを含む）、③パワーポイント、④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that you thought good about this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts（Worksheets, including digital resources etc.）②Write on the blackboard（Written communication in class, including use of digital whiteboards）③PowerPoint ④Video and other visual aids（This is not a video of the online class itself）⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
Ⅱ4　Ⅱ3 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】 If there is any reason for the answers for Ⅱ3 and other things you thought good about this course, please explain.【Free writing】
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】 ①配付資料（授業のレジュメなど）、②板書（電子媒体のものを含む）、③パワーポイント、④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that can improve this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts（Worksheets, including digital resources etc.）②Write on the blackboard（Written communication in class, including use of digital whiteboards）③PowerPoint ④Video and other visual aids（This is not a video of the online class itself）⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
Ⅱ6　Ⅱ5 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 If there is any reason for the answers for Ⅱ5 and other things that can be improved, please explain.【Free writing】
Ⅲ　学生が授業に期待するもの Student's expectations of this course
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】 ①自分にとって新しい考え方・発想、②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識 ③自分で調べ考える姿勢、④学問的興味、⑤上記にあてはまるものがない Through this course I learned/acquired the following.【Multiple answers allowed】 ①New concepts and new ways of thinking ②Basic academic knowledge related to the field taught in this course ③A positive attitude towards doing my own research and analysis ④Academic content which was suitably challenging ⑤N/A not applicable
Ⅲ2　Ⅲ1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course,please explain.【Free writing】
Ⅲ3　この授業を受けて満足した I was satisfied with this course.

2021 年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（1/2）

学部等	Ⅳ 「学部等による設問」	
	有無	（6 項目まで。1 項目は 10～30 字程度）
文学部	無	
経済学部	有	1）（基礎ゼミナール 1）経済文献を読む力がついた 2）（基礎ゼミナール 1）レジュメやレポート作成の力がついた 3）（情報処理入門 1）表計算ソフト（Excel）の応用力が身についた 4）（情報処理入門 1）Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた 5）（情報処理入門 1）WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた 1）（Pro-Seminar 1）I gained the ability to read economic literature. 2）（Pro-Seminar 1）I gained the ability to create resumes and reports. 3）（An Introduction to Information Processing 1）I have acquired the ability to utilize spreadsheet software (Excel). 4）（An Introduction to Information Processing 1）I have acquired the ability to create presentation materials in Power Point. 5）（An Introduction to Information Processing 1）I have acquired the ability to collect economic and statistical data from the web.
理学部	有	1）シラバスに沿って授業が行われた 2）教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた 3）（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった 4）（1年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた 1）The instructor conducted lessons based on the syllabus. 2）The instructor was willing to answer my questions/inquiries. 3）（This question is for the compulsory subjects only.） We solved problems through group works （i.e., working out exercises together, etc.） during the lessons. 4）（This question is for the freshman's compulsory subjects only.） The instructor gave us lessons with due consideration of the difference of lesson styles between high school’s and university's.
社会学部	無	
法学部	有	1）このオンライン授業は受けやすかった 2）このオンライン授業で出された課題の量は適切だった 3）このオンライン授業について改善すべき点があれば記入してください（自由記述） 1）The online lessons were easy to understand. 2）The amount of assignments in this online course was appropriate. 3）Is there anything that can be done to improve this online course?
経営学部	無	
異文化コミュニケーション学部	有	1）（多文化共生特論、国際協力・開発学特論、国際協力・紛争研究特論、自然共生特論）この授業の受講者数は適切だった 2）（多文化共生特論、国際協力・開発学特論、国際協力・紛争研究特論、自然共生特論）レジュメやレポート作成の力がついた 3）（Seminar in English） 異文化コミュニケーション学部の専門領域（専門的な学び）に対する興味・関心が増した 1）The class size was appropriate. 2）The course developed my ability to write academic papers and prepare handouts. 3）The course has increased my interest in the areas of study the College of Intercultural Communication covers.

2021 年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）(2/2)

学部等	Ⅳ 「学部等による設問」	
	有無	（6 項目まで。1 項目は 10～30 字程度）
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	無	
観光学部	無	
コミュニティ福祉学部	無	
現代心理学部	有	1)【オンライン／オンデマンドで受講した場合のみ対象】このオンライン授業の運営は適切になされた 2)【対面式で受講した場合のみ対象】この授業の設備・環境に満足している 1) If you attended this course online or on-demand, please answer this question: This online/on-demand course was appropriately organized. 2) If you attended this course face-to-face, please answer this question: I am satisfied with the facilities and learning environment of this course.
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	有	1)【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた 2)【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた 1) [For Introduction to Academic Studies] Through this class, I felt the difference between high school and university learning. 2) [For Introduction to Academic Studies] This class helped to acquire proactive attitude towards university learning.
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	有	1) 宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った 2) 宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた 3) 授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた 4) この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】 ①読む力、②書く力、③聞く力、④話す力、⑤プレゼンテーションをする力、⑥ディスカッションをする力 5) その言語の学習を継続したいと思うようになった 1) The homework and assignments were useful for understanding course content. 2) Feedback about homework and assignments, and responses to questions were sufficient. 3) Content covered in previous lessons was reviewed sufficiently. 4) What abilities did you improve through this course? (Multiple selections possible) ①Reading ability, ②Writing ability, ③Listening ability, ④Speaking ability, ⑤Presentation ability, ⑥Discussion ability 5) I feel like continuing to study this language.
学校・社会教育講座	無	

２－３　各学部等の科目選定方針

実施対象科目は、学士課程における 2021 年度開講科目である。

2021 年度は、基本方針により「学部等の必要性に応じた選定」により実施した（詳細は p.20 参照）。各学部等の選定方針は、下表のとおりである。

学部等	科目選定方針
文学部	(1) 各学科・専修の導入教育（初年次教育）科目 ①1 年次必修科目 ②1 年次で履修可能な科目 ③2 年次必修科目 ④2 年次で自動登録となる科目 (2) 文学部基幹科目 (3) 各学科・専修で必要と認める科目
経済学部	(1)「講義科目 1 教員 1 科目」の調査は実施しない。 (2) 本年度については原則春学期に実施するが、通年科目は秋学期に実施する。ただし過年度通年科目であった経済学 1・2 は、春・秋学期で担当教員が異なるため春・秋学期に実施。また簿記 1・2 は同一教員のため秋学期のみに実施する (3) 共通シラバスを用い、授業の目的及び内容にある程度の共通性があり、複数コマ開講されている科目及び積み上げ方式の 1 年次科目についてアンケートを実施する
理学部	(1) 数学科では新カリキュラム（2021 年度より移行）の有効性を検証するために、新カリキュラムにおける新規に設計した必修科目・選択必修科目について、定点観測（毎年、同じ科目で調査）を行う (2) 物理学科では原則として複数担当科目以外の全ての講義科目を選定する。経年変化を見るために、なるべく毎年同じ科目について、アンケートを実施する。ただし、講究は受講者が少ない場合が多いので、担当者の希望がある場合のみ実施することにする。また、一部の実験・演習科目でも行う (3) 化学科では原則として、必修講義科目ならびに選択講義科目（複数教員担当科目を除く）の経年変化を調査するために、毎年同じ科目についてアンケートを実施する (4) 生命理学科では授業評価に対する改善策の具体的効果を継続的に検証するために、前年度と同じ科目についてアンケートを実施する。なお、教員の希望により追加する科目もある (5) 共通教育科目では、受講者の少ない科目、ゼミナール科目を除いて実施する
社会学部	(1) 必修科目はすべて実施する (2)「講義科目」については、科目の種類を問わず、なるべく「年間 1 教員 1 科目」となるように選定作業を行う
法学部	(1) 3 年に 1 回全教員（専任・兼任）について、1 教員 1 科目を原則に行う (2) (1) を行わない年度については、本学で初めて授業を開講する教員、およびアンケートの実施を希望する科目を対象に行う ※2021 年度は（2）に該当する
経営学部	「演習」を除く全科目で実施する。ただし、科目特性を考慮して、独自にアンケートを実施する科目については、当該アンケートの実施対象に含めない
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	(1) 新カリキュラムの検証 (2) 全カリ英語教育新カリキュラムの導入および 24 年度学部カリキュラム改編を視野に入れた必修・基盤科目の見直し
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ	演習系科目は実施対象外とする
観光学部	(1) 原則として学部方針によって選定する 2 年間のうちに全教員 1 回 1 科目で実施する (2) 演習科目は対象としない (3) 複数教員担当科目は対象としない (4) 集中講義は対象としない

学部等	科目選定方針
コミュニティ福祉学部	(1) 学部専任教員（助教含む）1 科目以下の実施を原則とする (2) 資格科目を優先する (3) 演習科目は対象外とする (4) 昨年度実施科目を優先する
現代心理学部	(1) 学部専任教員が担当する「学部統合科目（旧カリ「学部共通選択科目」)」全科目 (2) 学部専任教員が担当する「初年次教育科目」 (3) 学部専任教員が担当する「講義科目」及び「共通シラバスにより展開される一部の科目」 なお、「演習科目」「実験科目」及び「複数教員担当科目」は、原則として実施対象としない
全学共通カリキュラム運営センター･総合系科目	(1) 学びの精神、多彩な学び 1～5 カテゴリの講義系の全科目、F 科目の全科目、演習系「立教ゼミナール発展編」の全科目、および多彩な学び・6 カテゴリで開講するグローバル教育センター提供科目を対象とする (2) 学びの精神、多彩な学び 1～5 カテゴリを担当する 1 教員（専任・兼任）1 科目の実施とする。ただし、「立教ゼミナール発展編」を担当する教員はこれに追加して実施する (3) 多彩な学び・6 カテゴリで開講するグローバル教育センター提供科目は、本学で開講される全科目で実施をする (4) 1 教員につき実施対象候補科目が複数ある場合には、以下の順序で、実施科目を選定する ①学びの精神を優先 ②多彩な学びの企画提案型科目「コラボレーション科目」を優先 ③新座開講科目を優先 ④2 時限・3 時限を優先 ⑤全体における春学期・秋学期の実施科目数に配慮する
全学共通カリキュラム運営センター･言語系科目	原則として、全科目実施する。ただし、連続性のある科目（例：「～語基礎 1・2」「上級英語 1・2」）を同一教員が春学期・秋学期担当する場合は、秋学期のみ実施する
学校・社会教育講座	(1) 履修者 5 名以下が予想される科目は対象外とする (2) 教職課程は「講義科目 1 教員 1 科目」を原則として実施する (3) 他課程は、今年度、特に授業評価を要する重点的科目に限って、アンケートを実施する

２－４　実施科目数

最少回答人数（5 名以上）の条件を満たした科目数を実施科目とする。

（最少回答人数に満たなかった科目については、学部提供データをはじめとした各種統計データには含めないこととする。）

実施科目数は、春学期 1,237 科目、秋学期 1,100 科目、合計 2,337 科目であった。

所見票提出率は 82.28%（1,923/2,337）となった。

科目開設学部等	実施予定科目数	実施学期内訳		実施科目数(回答者5名以上)	実施学期内訳		所見票提出数	実施学期内訳	
		春学期	秋学期		春学期	秋学期		春学期	秋学期
文学部	108	48	60	87	41	46	62	31	31
経済学部	66	53	13	61	51	10	56	46	10
理学部	109	55	54	94	53	41	76	39	37
社会学部	117	57	60	93	51	42	71	38	33
法学部	13	6	7	12	6	6	12	6	6
経営学部	92	43	49	71	38	33	50	27	23
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	61	42	19	47	34	13	38	27	11
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ	34	19	15	17	11	6	14	9	5
観光学部	70	41	29	59	35	24	47	26	21
コミュニティ福祉学部	32	18	14	32	18	14	26	14	12
現代心理学部	23	7	16	22	7	15	19	5	14
全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ・総合系科目	409	222	187	351	209	142	267	152	115
全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ・言語系科目	1,837	821	1,016	1,338	650	688	1,138	535	603
学校・社会教育講座	63	41	22	53	33	20	47	31	16
合計	3,034	1,473	1,561	2,337	1,237	1,100	1,923	986	937

２－５　実施期間

原則として 13 回目の授業時に実施し、休講等で実施できなかった場合は 14 回目（最終授業）の授業時もしくは、実施期間終了時までに実施することとした。

春学期　：2021 年 7 月 7 日（水）～7 月 13 日（火）

・（予備週）7 月 14 日（水）～7 月 20 日（火）

・学生が回答可能な期間は 7 月 7 日（水）～7 月 20 日（火）

秋学期　：2022 年 1 月 8 日（土）～1 月 17 日（月）

・（予備週）1 月 18 日（火）～1 月 24 日（月）

・学生が回答可能な期間は 1 月 8 日（土）～1 月 24 日（月）

なお、四半期科目については原則として 7 回目の授業時に実施し、学生が回答可能な期間はこの実施期間に加えて期間終了後の 1 週間延長することとした。

春学期 1 ：2021 年 5 月 26 日（水）～6 月 1 日（火）

・学生が回答可能な期間は 5 月 26 日（水）～6 月 8 日（火）

秋学期 1 ：2021 年 11 月 13 日（土）～11 月 20 日（土）

・学生が回答可能な期間は 11 月 13 日（土）～11 月 27 日（土）

２－６　回答者数

アンケート実施科目の延べ回答者数を、科目の開設学部等別に下表にまとめた。参考のために、延べ履修者数も表に載せた。

アンケートの回答率（※）は、37.9%（〈B〉51,600／〈A〉136,300）であった。

※〈B〉集計対象科目回答者数（回答者５名以上）／〈A〉集計対象科目履修者数（回答者５名以上）

科目開設学部等	春学期		秋学期		合　計	
	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数
文　学　部	4,164	1,618	4,295	1,070	8,459	2,688
経　済　学　部	2,720	1,655	1,171	379	3,891	2,034
理　学　部	3,732	1,311	2,566	818	6,298	2,129
社　会　学　部	7,239	2,604	5,795	1,128	13,034	3,732
法　学　部	1,235	394	967	176	2,202	570
経　営　学　部	7,170	1,831	5,936	1,286	13,106	3,117
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部	880	568	465	256	1,345	824
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ	234	172	138	75	372	247
観　光　学　部	7,147	1,894	4,108	817	11,255	2,711
コミュニティ福祉学部	2,153	1,245	1,676	519	3,829	1,764
現代心理学部	981	341	1,625	415	2,606	756
全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ・総合系科目	23,893	7,593	17,079	4,290	40,972	11,883
全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ・言語系科目	12,567	8,969	13,959	9,137	26,526	18,106
学校・社会教育講座	1,434	713	971	326	2,405	1,039
合　計	75,549	30,908	60,751	20,692	136,300	51,600

２－７　「所見票」の公開

所見票（科目別の集計結果および科目担当者による所見）は、Web 上で学生・教職員（兼任講師含む）に対し閲覧に供している。

※閲覧にあたっては V-Campus ID／パスワードが必要

＜立教時間：所見票検索＞

教職員：https://portfolio.rikkyo.ac.jp/tcr/ces/feedback/search/index

学　生：https://portfolio.rikkyo.ac.jp/stu/ces/feedback/search/index

＜所見票閲覧システム（2019 年度以前）＞

https://wwwj.rikkyo.ac.jp/kyomubu/etsuran/top.html

２－８　任意実施科目

2020 年度秋学期より「立教時間」による Web 方式で「学生による授業評価アンケート」が実施されることになり、実施上限科目数の制約が解消されたことを受けて、学部等が選定した実施科目に加えて、各教員が希望した科目において任意に「学生による授業評価アンケート」を実施可能とすることになった。

2021 年度は大学教育開発・支援センターより「立教時間（SPIRIT メール）」を通じて、任意実施について案内を行い、春学期は 9 科目、秋学期は 4 科目実施した。

３．科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック

３－１　科目担当者

担当科目の以下の集計結果をアンケート実施 1～2 ヶ月後に「立教時間」上に掲載し、これらを基に、科目担当者に所見票の執筆を依頼した（p.16 にサンプル画面を掲載）。

・回答情報（自由記述回答含む）
・回答統計情報

３－２　学部等

以下により集計し、2）の結果と科目担当者が執筆した所見票を送付の上、学部等総評の執筆を依頼した。

１）集計の方針

集計の方針は、以下のとおりとした。

①学部等別・学科等別に集計する。
②科目選定方針が「学部等の必要性に応じた選定」である本年度は、全学集計は行わない。また、全学部等間の設問項目別平均値の一覧表は作成しない。

２）集計内容

①回答者数・回答率

アンケート回答者数を学部等別、学年別に集計した（合計も記載）。また、アンケート実施科目について学部等別の回答率（回答者数/履修者数）を算出した（p.70 参照）。

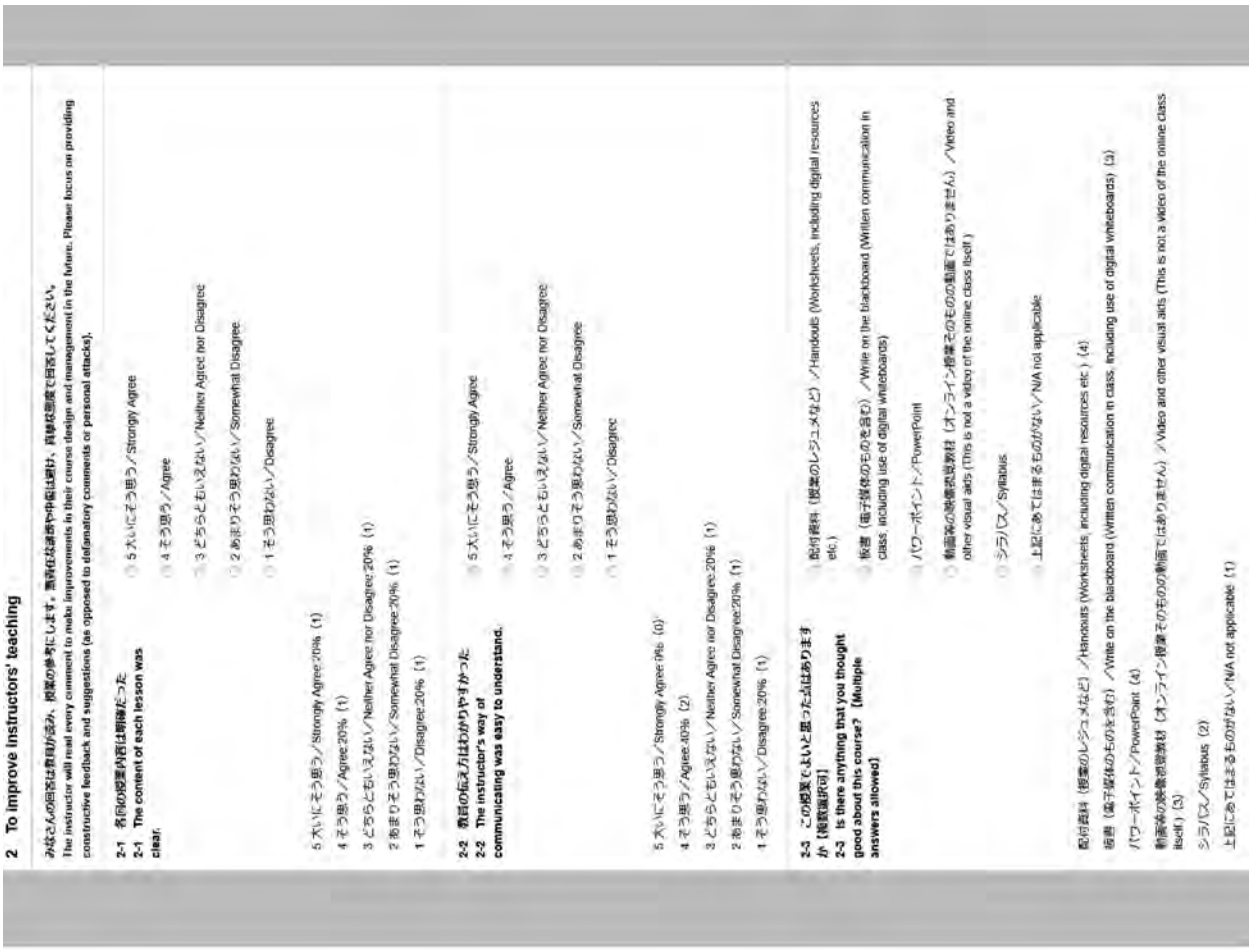
②平均値・回答割合に関する集計

平均値・回答割合に関する集計は、下表のとおり行った。

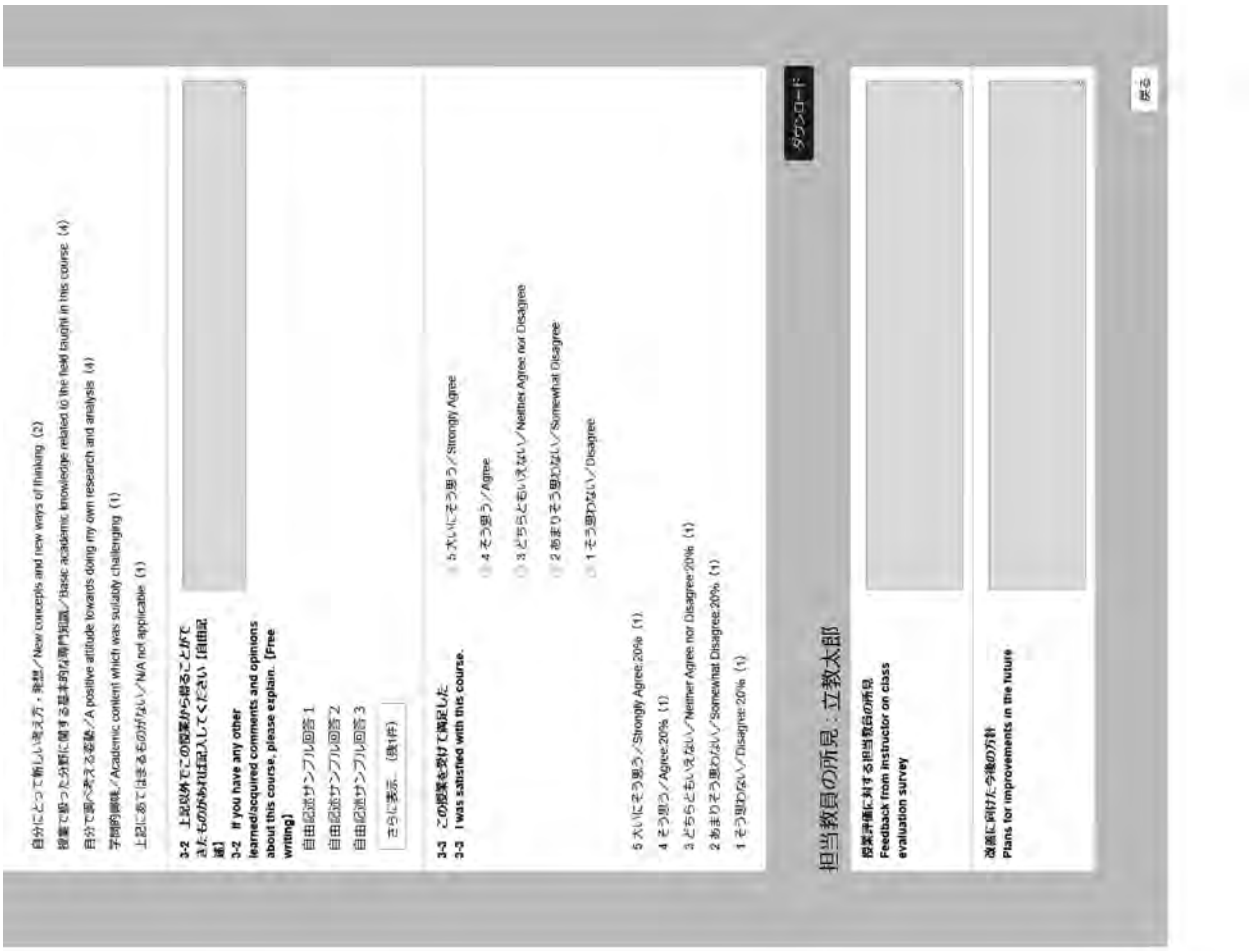
集計単位 / 提供した集計データ	学部等別 *1	学科等別 *1
設問項目別	●*2 (pp.71-84 参照)	●
学年別	●	―
授業規模別	●	―

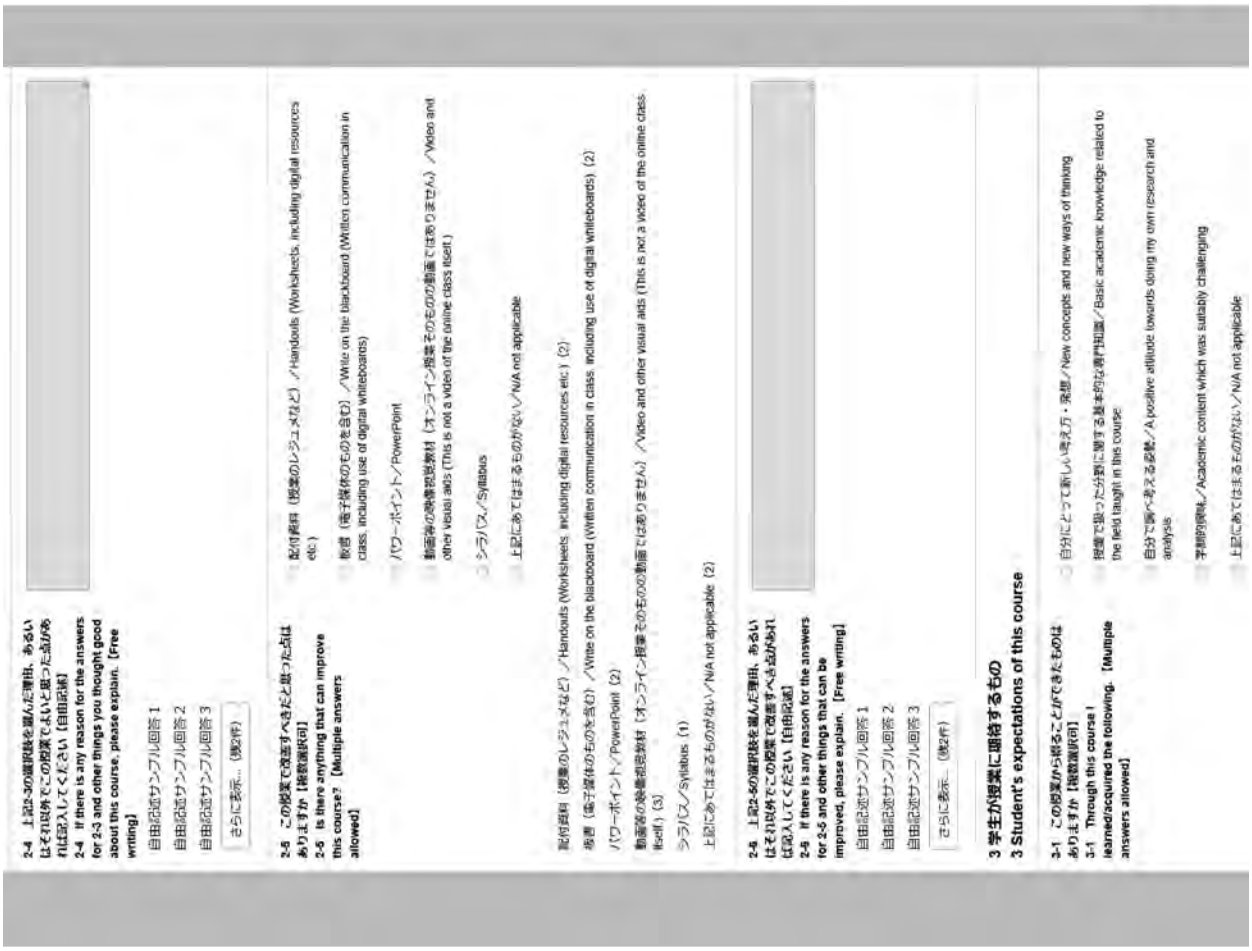
*1 学部等には、当該学部の結果を提供
*2 学部等には、設問項目別に回答割合を示した帯グラフも提供

サンプル ＜授業評価アンケート結果確認・所見入力画面＞（1/2）



サンプル ＜授業評価アンケート結果確認・所見入力画面＞（2/2）





サンプル <所見票> (1/2)

立教時間　立教太郎

Home　所見票検索　授業評価アンケート選択　所見票確認

※科目名が入る

授業評価入力・確認

2021年度秋学期「学生による授業評価アンケート」

ステータス	確定
教室情報	
提出日	
アンケート入力期間	
シラバスの参照	
説明	このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。 The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数:5件

1　学生の学習姿勢
1　My participation in this course

1-1　この授業に積極的に参加した
1-1　I actively participated in the lessons.

- 5 大いにそう思う／Strongly Agree
- 4 そう思う／Agree
- 3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree
- 2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree
- 1 そう思わない／Disagree

5 大いにそう思う／Strongly Agree:20%
4 そう思う／Agree:20%
3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20%
2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20%
1 そう思わない／Disagree:20%

1-2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）
1-2　Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.
=Fill in how many hours.

平均：2.6（5）

2　教員の授業改善に向けて
2　To improve instructors' teaching

みなさんの回答は教員が読み、授業の参考にします。無責任な誹謗や中傷は避け、真摯な態度で回答してください。
The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

2-1　各回の授業内容は明確だった
2-1　The content of each lesson was clear.

- 5 大いにそう思う／Strongly Agree
- 4 そう思う／Agree
- 3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree
- 2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree
- 1 そう思わない／Disagree

5 大いにそう思う／Strongly Agree:20%
4 そう思う／Agree:20%
3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20%
2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20%
1 そう思わない／Disagree:20%

2-2　教員の伝え方はわかりやすかった
2-2　The instructor's way of communicating was easy to understand.

- 5 大いにそう思う／Strongly Agree
- 4 そう思う／Agree
- 3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree
- 2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree
- 1 そう思わない／Disagree

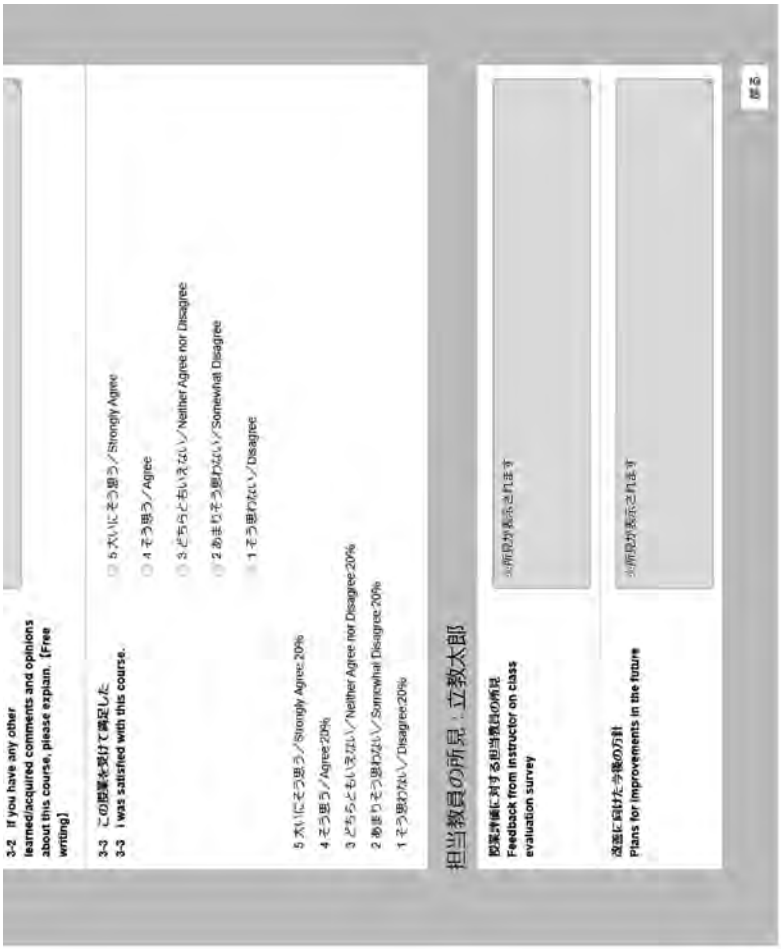
5 大いにそう思う／Strongly Agree:0%
4 そう思う／Agree:40%
3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20%
2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20%
1 そう思わない／Disagree:20%

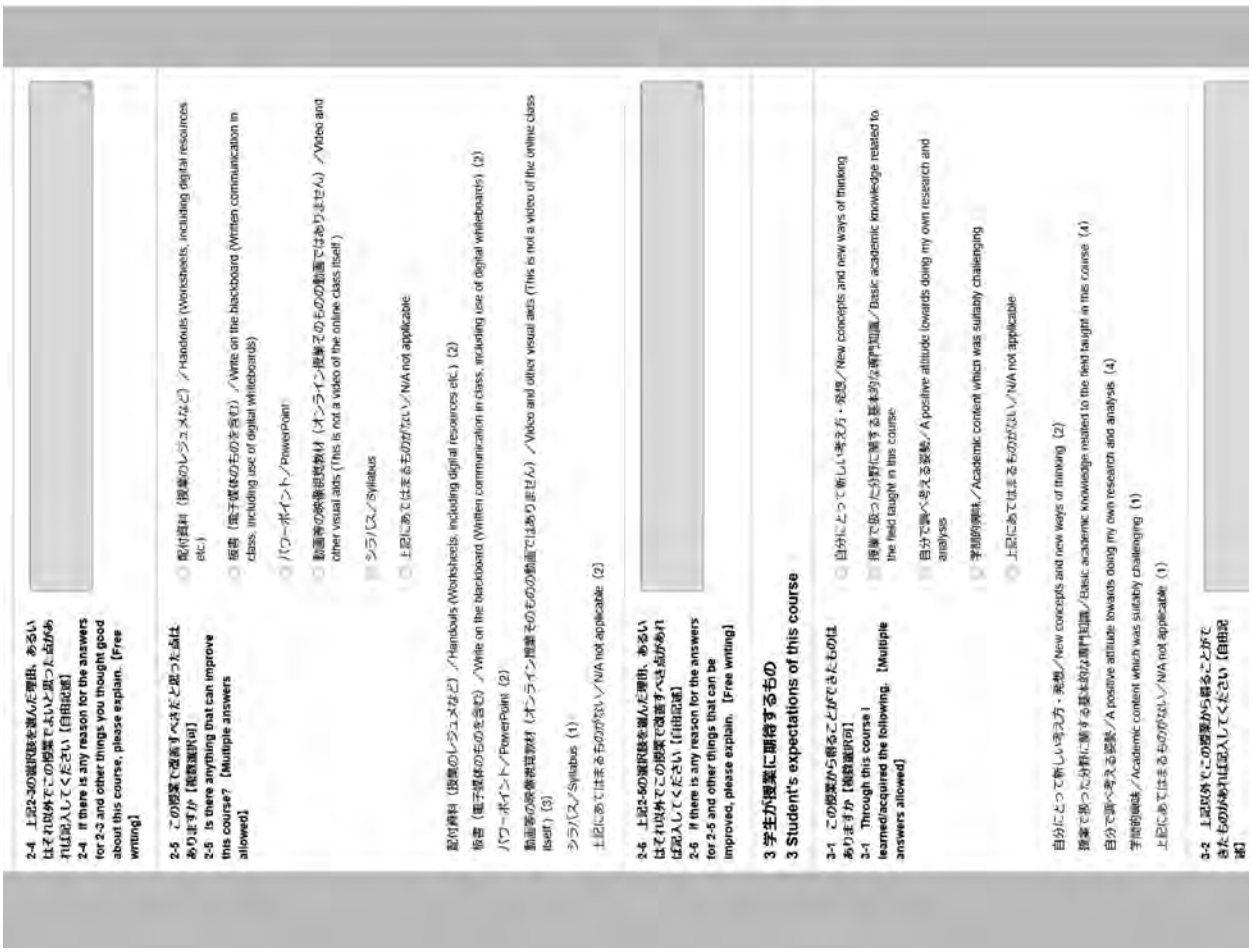
2-3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】
2-3　Is there anything that you thought good about this course? 【Multiple answers allowed】

- 配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)
- 板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)
- パワーポイント／PowerPoint
- 動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）／Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.)
- シラバス／Syllabus
- 上記にあてはまるものがない／N/A not applicable

配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)（4）
板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)（3）
パワーポイント／PowerPoint（4）
動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）／Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.)（3）
シラバス／Syllabus（2）
上記にあてはまるものがない／N/A not applicable（1）

サンプル ＜所見票＞（2/2）


3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]
3-3 この授業を受けて満足した
3-3 I was satisfied with this course.
5 大いにそう思う／Strongly Agree
4 そう思う／Agree
3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree
2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree
1 そう思わない／Disagree
5 大いにそう思う／Strongly Agree:20%
4 そう思う／Agree:20%
3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20%
2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20%
1 そう思わない／Disagree:20%
担当教員の所見：立教太郎
授業評価に対する担当教員の所見
Feedback from instructor on class evaluation survey
改善に向けた今後の方針
Plans for improvements in the future
閉じる


2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください [自由記述]
2-4 If there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]
2-5 この授業で改善すべきだと思った点はありますか [複数選択可]
2-5 Is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]
配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.)
板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards)
パワーポイント／PowerPoint
動画等の映像視聴教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）／Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself)
シラバス／Syllabus
上記にあてはまるものがない／N/A not applicable
配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (2)
板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (2)
パワーポイント／PowerPoint (2)
動画等の映像視聴教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）／Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) (3)
シラバス／Syllabus (1)
上記にあてはまるものがない／N/A not applicable (2)
2-6 上記2-5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください [自由記述]
2-6 If there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. [Free writing]
3 学生が授業に期待するもの
3 Student's expectations of this course
3-1 この授業から得ることができたものはありますか [複数選択可]
3-1 Through this course I learned/acquired the following. [Multiple answers allowed]
自分にとって新しい考え方・発想／New concepts and new ways of thinking
授業で扱った分野に関する基本的な専門知識／Basic academic knowledge related to the field taught in this course
自分で調べ考える姿勢／A positive attitude towards doing my own research and analysis
学術的内容／Academic content which was suitably challenging
上記にあてはまるものがない／N/A not applicable
自分にとって新しい考え方・発想／New concepts and new ways of thinking (2)
授業で扱った分野に関する基本的な専門知識／Basic academic knowledge related to the field taught in this course (4)
自分で調べ考える姿勢／A positive attitude towards doing my own research and analysis (4)
学術的内容／Academic content which was suitably challenging (1)
上記にあてはまるものがない／N/A not applicable (1)
3-2 上記以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください [自由記述]

４．学部等総評

学部等総評は、科目ごとの集計結果、各教員の執筆した所見および学部全体の集計結果をもとに、下記を基本形として、各学部等が執筆した。

＜構成の基本形＞

1. 科目選定方針とねらい
2. 集計データにみられる結果のまとめ
3. 担当教員の所見に対するまとめ（学生の意見に関する内容を含む）
4. 今後の改善に向けて

４－１　文学部

１．科目選定方針とねらい

2021 年度については、導入ならびに基礎科目を中心として調査を行う方針を立て、以下の科目を選定した。

（1）各学科・専修の導入教育（初年次教育）科目

①1 年次必修科目

②1 年次で履修可能な科目

③2 年次必修科目

④2 年次で自動登録となる科目

（2）文学部基幹科目

（3）各学科・専修で必要と認める科目

なお、学部による設問項目については、これまで踏襲してきた設問が対面授業を前提としたものであって、オンライン授業には適切でなかったため、学部による設問項目は設けなかった。

２．集計データにみられる結果のまとめ

アンケート実施科目数は合計 87 科目で、内訳としては春学期 41、秋学期 46 科目であった。調査対象となった科目の総履修者数は 8,459 名で、そのうちの 31.8%にあたる 2,688 名から回答があった。この回答率は全学平均（37.9%）を下回るものであると同時に、昨年度の文学部回答率（44.7%）から下落した。この下落は全学的な傾向に沿った部分も認められる。2020 年度から続く下落傾向の背景には、授業のオンライン化や、アンケートの実施方法が Web 化されたことによる影響が考えられる。今後、一定数の回答者数を確保するための改善策を講じる必要性が認められる。

学年別の回答者数を見ると、1 年生 1,449 名、2 年生 638 名、3 年生 457 名、4 年生 140 名、その他が 4 名となっている。導入教育を中心に学科・専修ごとに科目を指定し、それぞれの動向を把握するというねらいに対応した分布になった。

Ⅰ「学生の学習姿勢」

文学部の回答平均値において、Ⅰ1「授業参加の積極性」は昨年度の平均値 4.25 を維持した。一方、Ⅰ2「授業時間外の学習」は 1.67 時間から 1.44 時間へ減少した。2020 年度に関しては、オンライン授業が導入されたことにより課題が増え、授業時間外の学習時間が高まった可能性を報告した。2021 年度は学生が課題への取り組みに慣れた可能性が指摘できるだろう。

Ⅱ「教員の授業改善に向けて」

Ⅱ1「各回の授業内容」に対する評価が 4.32、Ⅱ2「教員の伝え方」には 4.22 と、ともに 4 点を上回る高い評価が与えられており、教員の授業内容に対する学生の満足度は高いとみて良い。複数選択可の選択項目を列挙したⅡ3「授業のよい点」では、①「配付資料（レジュメなど）」（63.2%）および③「パワーポイント」（25.0%）を選択する学生が多かった一方で、⑤「シラバス」（6.7%）は選択項目中もっとも低いパーセンテージとなった。シラバ

スの読みやすさを高めることは、前年度に引き続き大きな課題である。他方、Ⅱ5「授業の改善点」については、全体の 64.4%が⑥「あてはまるものがない」を選択するとともに、もっともポイントが高かった①「配付資料（レジュメなど)」でも、選択学生の割合は 9.6%と両項目ともに 2020 年度から一定の改善を示した。教員の授業準備に対して、概ね好意的な評価が寄せられていると考えて良い。

Ⅲ「学生が授業に期待するもの」

Ⅲ1「授業から得られたもの」については、複数選択可として以下のような項目を挙げたが、99.7%の学生が一つ以上の項目を選択した。各項目における選択者の割合は丸括弧内に示すと、それぞれ①「自分にとって新しい考え方・発想」(54.2%)、②「基本的な専門知識」（62.4%)、③「自分で調べ考える姿勢」(27.9%)、④「学問的興味」(46.8%)、⑤「上記にあてはまるものがない」(2.4%）となっており、前年度に引き続き「新しい考え方」や「専門知識」を学生に伝えることに関して高い効果が認められる。一方、「自分で調べ考える姿勢」については、他の項目に比べ低い値が認められる。

また、Ⅲ3「授業の満足度」については総じて高い評価が与えられたが、学年別に見てみると 3～4 年生がいずれも 4.3 を超える値であるのに対し、1～2 年生の満足度は 4.24～26 とわずかに低い。入学後すぐに全面オンライン授業となってしまったことと関係するのかも知れない。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員が学生の評価と向き合い、その内容を正面から受け止めて、今後の改善策を探ることにつなげようとする姿勢を表明している。特に、評価が低い項目についてはそうした傾向が強い。

１）所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

教員の授業準備や説明に肯定的な評価が多く寄せられた。また、前年度に引き続き、オンライン授業で学生の積極的な参加を促す工夫にも、評価するコメントが寄せられた。教員の人柄に対する好意的なコメントや、導入期の授業や演習での教員と学生との活発な交流がわかる記述も多かった。さらに、資料を印刷して配付するのではなく、授業支援システム上で配付することを評価するコメントも見られた。

その一方で、前年度に多く見られたオンライン授業に関する技術的な問題点の指摘は減少した。また、授業進度、評価方法、レポート課題の書き方についての説明などに関する要望も前年度に引き続き一定数見られ、教員の側で改善を検討していく必要がある。

２）上記１）に対する担当教員の所見のまとめ

多くの教員が、自らの授業実施に関して客観的に振り返るとともに、学生からの指摘内容を丁寧に受け止めていたことが確認できる。2021 年度は、対面授業、オンライン授業、ミックス型授業が特に春学期に混在したこともあって、多くの教員の所見にその取り組みへの苦心が垣間見られる。他方で、秋学期には一定数の科目が対面授業に移行したこともあり、その点を肯定的にとらえる所見が確認できる。

演習・講義といった授業種別を問わず、学生からの肯定的な評価に励まされた旨の記述が少なからず見られる。また、2021 年度はオンライン授業が始まって 2 年目となり、教員が技術的な工夫を様々に発展させ、それが学生にも肯定的に評価されていることがわかる。

ただし、全体的な回答率が下がったことと関係するのか、学生の自由記述の少なさから教員の所見をどのように書くべきか戸惑う声も見られたが、これは学生からの評価を真摯に受け止めようとする教員の姿勢の表れだと言えるだろう。

３－２　「改善に向けた今後の方針」のまとめ

多くの教員が、アンケートの結果を受けて、授業改善を目指した対応を行おうとしている。改善すべき点は授業ごとに異なるが、春学期を中心にオンライン授業に関するものが目立ったのに対して、秋学期になると、新型コロナウイルス感染症流行前と同様の課題、すなわち板書、パワーポイント、ディスカッションなどが言及されるようになった。

全体的な満足度は高いものの、自由記述欄に不満の表明がある科目などでは教員が苦慮している様子が所見欄より窺えた。

４．今後の改善に向けて

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の流行によって 1 年を通じてオンライン授業の実施を余儀なくされ、教員は制約のある条件下で教育効果を確保するために尽力した。その結果、学生の満足度も総じて高かったが、視覚資料を用いるなどオンライン授業の資料を改善することが課題となった。これに対して 2021 年度は前年度に引き続きオンライン授業が中心となりつつも、秋学期以降は対面授業の割合が増加し、新型コロナウイルス感染症の流行前と同様の課題が再び認められるようになった。2022 年度以降も、同様に対面授業が中心となり、2019 年度以前に見られた課題に取り組む必要性が生じることと思われる。スクリーンによる資料提示、教員による板書、学生同士のディスカッションなど、教室でのアクティヴィティに関する課題が今後は問われてゆくだろう。

４－２　経済学部

１．科目選定方針とねらい

2021 年度の選定方針は概ね以下の通りである。

・「講義科目 1 教員 1 科目」の調査は実施しない。

・共通シラバスを用い、授業の目的および内容にある程度の共通性があり、複数コマ開講されている科目および積み上げ方式の 1 年次科目についてアンケートを実施する（とりわけその基幹科目については、学部でグループ集計を行う）。

アンケートのねらいは、学生側からの授業評価を通じて、今後における授業改善のための課題を各々の授業担当教員が認識することにある。

２．集計データにみられる結果のまとめ

2021 年度のアンケート実施科目数は 61 科目（実施対象科目 66 科目）、回答者は延べ 2,034 名となった。履修者数と比した回答率は 52.3%と全学平均（37.9%）を上回った。回答率が高かった要因として、実施対象科目の中心が 1 年次の必修あるいは自動登録科目であり（延べ回答者の 9 割以上が 1 年次生）、授業への出席率が高かったことが考えられる。また、授業規模別平均値に関しては、101 名以上の授業では平均値が若干低下する傾向がみられる。これは今回のアンケート実施科目 61 のうち、101 名以上の科目は 3 と少なく、50 名以下の科目は 49 を占めていることが影響していよう。これら科目の多くは「基礎ゼミナール」のような演習科目および「情報処理入門」のような実習系科目であり、教員によるきめ細かい指導が行われたことを反映しているものと推測される。

まず、設問項目別平均値についてまとめる。「Ⅰ　学生の学習姿勢」、「Ⅱ　教員の授業改善に向けて」、「Ⅲ　学生が授業に期待するもの」においては、「Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」の平均値が 1.50 時間であったことを除いて、全ての項目で 4.06 以上という高い数値が算出されている。「Ⅳ　学部等による設問」においても、5 項目のうち 4 項目が 4.05 以上という高い数値となっている。相対的に平均値が低い項目は、「Ⅳ1　（基礎ゼミナール 1）経済文献を読む力がついた」が 3.97 となっている。その一方で、「Ⅳ2　（基礎ゼミナール 1）レジュメやレポート作成の力がついた」については、4.32 と最も高い数値となっており、ここには改善の余地があると思われる。この点については、４．で後述する。

次に、設問項目別回答割合についてまとめる。「Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか（複数選択可）」では、「配付資料（授業のレジュメ）など」が 56.7%と突出しており、「パワーポイント」が 28.5%と続いている。注目すべきは、「Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか（複数選択可）」においても、「配付資料（授業のレジュメ）など」が 12.5%と最も高い数値になっていることである（最上位は「上記にあてはまるものがない」の 61.7%）。授業を受ける学生にとってレジュメを含む配付資料がとても重要であることが今年度も示されており、レジュメを含む配付資料を学生が重視していることに担当教員は留意する必要があろう。「Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか（複数選択可）」においては、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 64.4%と高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」はいずれも 24～31%と相対的に低くなっている。ここにも改善の余地があると思われ、この点についても４．で後述する。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

所見の記述内容は各教員によって差異があるものの、オンライン授業およびミックス型授業に関係する内容が多かった。総じて、2020 年度よりはオンライン授業時のトラブルや混乱は減少傾向にあり、このことが学生からの高評価につながった可能性はある。ただ、ミックス型授業時に対する学生の不満については、未だ解決されていない課題として残されている。例えば、教室における板書の内容がオンライン受講者には不明瞭であったり、グループワーク時における対面受講者とオンライン受講者との意思疎通の困難などである。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

ほぼ全ての教員がオンライン授業を経験したはずであるが、ミックス型授業を経験した教員は相対的に少ない。オンライン授業移行時と同様に、今後ミックス型授業移行時には教員によるツール使用の巧拙によって、学生によるアンケート評価が異なってくる可能性がある。ミックス型授業に関する FD 研修会を実施し、教員間において有効ツールに関する情報の共有化を図りたい。オンライン受講者に対しても対面受講者に対しても丁寧な対応を可能とするスキルを各教員が修得し、どの授業形態においても学生の学びに対するモチベーションが低下しない体制の構築を目指したい。

４．今後の改善に向けて

基本的には学生より高い評価を得ることができたといえるが、改善の余地はある。まず、２．の第 2 段落で指摘した、「Ⅳ2 （基礎ゼミナール 1）レジュメやレポート作成の力がついた」などのスキルが相対的に高い数値となっている一方で、「Ⅳ1 （基礎ゼミナール 1）経済文献を読む力がついた」が相対的に低い数値となっていることについてである。このことは、「基礎ゼミナール」で経済文献を正確に理解する力を伸ばすことにより、「情報処理入門」履修者対象の設問Ⅳ3～5 の中で相対的に平均値の低いⅣ4 の Power Point プレゼンテーション用資料作成能力なども向上する余地があり、1 年次生にとってより良い学習成果の獲得が期待されることを示している。

次に、２．の第 3 段落で指摘した、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の数値が相対的に高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」の数値はいずれも相対的に低くなっていることについてである。アンケート対象科目のほとんどが 1 年次生向けの科目であり、基本的な専門知識を理解することに注力したために、発展的な勉強を行うための十分な時間がとれなかった可能性もあるが、今後においても、学生（とりわけ 1 年次生）に対して時事問題に対する意識や経済学そのものへの関心を高める継続的試みが必要と考えられる。この点は過年度からの改善すべき課題として認識されていた。ある教員の所見にもあったが、講義内容に関係する現在進行形の社会問題や政治経済問題をタイムリーに提供し、学生の「学問的興味」を掻き立て、発展的な学習につなげられる環境の構築が必要と思われる。

４－３　理学部

１．科目選定方針とねらい

「学部等の必要性に応じた選定」という科目選定方針、および経年変化を調査するため同じ科目を選定するという理学部の方針に沿って、数学科は 2021 年度から新設の必修科目・選択必修科目、物理学科は原則すべての講義科目（複数教員担当科目を除く）、化学科は必修講義科目と選択講義科目（原則、複数教員担当科目を除く）、生命理学科は改善策の具体的効果を確認するため前年度と同じ科目を選定した。なお、複数の科目が教員一人の担当とならないよう重複は避けた。共通教育科目は受講者数の少ない科目、ゼミナール科目を除いて実施した。理学部独自の設問についても例年通り行った。

２．集計データにみられる結果のまとめ

理学部の回答率は 33.8%で、全学平均の 37.9%より低く、また昨年度の回答率 44.5%に対して 10 ポイント以上減少していた。これは昨年度から顕著に現れた傾向で、全学平均の回答率も同様に減少し続けている。一方で、学年ごとにおける回答者数（延べ人数）は、1 年生 912 名（前年 685 名）、2 年生 761 名（前年 460 名）、3 年生 404 名（前年 241 名）、4 年生 50 名（前年 56 名）、その他 2 名と増加傾向にあるものの、それ以上に対象科目数が増えたことで相殺以上の回答率低下を招いたと思われる。

個別の項目を見ていくと、「（Ⅰ1）この授業に積極的に参加した」は 4.21 で、昨年度 4.17 から微増しており、学科別では数学（4.42）と化学（4.30）が高く、物理学（4.15）と生命理学（4.08）が若干ではあるが低い傾向にある。「（Ⅰ2）この授業に関連して、授業以外に学習した時間」では、1.67 時間と、昨年度 1.78 時間より微減しているが、ここには共通教育分（0.88 時間）の影響が少なからずあると思われ、数学・物理学・化学・生命理学の 4 学科平均は 1.79 時間となる。「（Ⅱ1）各回の授業内容は明確だった」（4.24、前年度 4.31）や「（Ⅲ3）この授業を受けて満足した」（4.09、前年度 4.11）の項目については、前年度から大きな変動はない。

「（Ⅳ）学部等による設問」については、「シラバスに沿って授業が行われた」「教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた」の項目について若干改善が見られ、また、「（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった」についても改善が見られたことは、オンライン授業においても学生同士のコミュニケーションが活発化したことに起因していると思われる。一方で、「（1 年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた」については、昨年度 3.86 から 3.75 と減少しているが、これはコロナ対策の一環として高校・大学ともに授業がオンライン化していることで、環境面における違いを感じにくかったのではないかと思われる。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2021 年度は、新型コロナウイルスの感染対策のための制限レベルが度々変動し、対面・オンラインおよびそれらが混合したミックス型授業が展開された。春学期こそ、質問のしにくさや授業展開のペース等について教員・学生間の意思疎通において若干の難しさが見受

けられたものの、秋学期以降はそれぞれ解消出来ていたようである。

１）学生の意見（記述による評価）の集約

「肯定的な意見の集約」: Blackboard 等を活用してレジュメや資料を事前に配付、課題の模範回答等を掲載したことにより、反転学習ができたようで、多くの好意的な意見が寄せられていた。授業運営においては、これらの資料と、リアルタイムでの板書とを併用したことが功を奏し、効果的な理解に繋がっていたようである。

「否定的な意見の集約」: 予習等を含む授業時間外の学習時間の少なさから演習を授業内で実施しなければならず、結果として授業計画が変更となってしまったことや、そのほかそもそも課題が多いこと、また、特に春学期においては、授業展開のスピードについていけなかった等、否定的な意見があった。

２）担当教員の所見の集約

ほとんどの教員が前年度のオンライン授業における課題に対し、上述のような授業内資料の事前配付や、質問受付のためにブレイクアウトルーム・Google Forms 等の有効活用をすることで理解度や、学生・教員間のコミュニケーションを向上させていた。一方で、制限レベルが数回にわたって変更になったことに伴って、学生の反応が確認出来なくなってしまったり、また、そもそもアンケートの回答率が低いことから、本当にこれらの評価が正しいものか判断しにくいという意見もあった。

３－２　「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2021 年度は、前年度のオンライン授業展開の知見が生かされ、改善されてきた点も多くあるが、対面で参加している学生とオンライン参加している学生との理解度の格差解消や、授業ペースが適切か否かを判断出来るような双方向コミュニケーションの方法を図るなど、多様な受講環境に対応し得る工夫が求められる。

４．今後の改善に向けて

2022 年度以降に向けては、新型コロナウイルスの感染状況が不透明な部分もあるが、オンライン授業においてこれまでの 2 年間で醸成された知見等を、ポストコロナの状況下でどのように活用していくかを意識していく必要がある。或いは、オンライン授業の必要性が今後また出てくるとしても、理解度の格差解消のためにリアルタイム受講を励行する、反転授業に対する動機づけを強化するなど、対面型と同等の教育効果を追求・検討し続けることが重要である。

４－４　社会学部

１．科目選定方針とねらい

対象科目の選定方針は前年度を踏襲し、以下のとおりとした。

①必修科目はすべて実施する

②講義科目については、科目の種類を問わず、なるべく「年間 1 教員 1 科目」となるように選定作業を行う

2012 年度導入の現行カリキュラムでは、従来学科別に行われていた初年次、2 年次の必修科目を学部共通の必修科目と位置づけ、これまで以上に学部として基礎教育の充実を目指すことになった。これらの科目に対する学生の評価は、今後の基礎教育のさらなる充実を考慮すると、重要なものとなる。①については、2011 年度まで「必修・選択必修の講義科目は、原則としてすべて実施する」というやや緩やかな方針をとっていたが、基礎教育を重視するカリキュラム改訂の実施を踏まえて、2012 年度から必修科目は全て実施するという変更を行った。2021 年度は「学部等の必要性に応じた選定」が全学の科目選定方針であるが、社会学部においては②を 2007 年度以降選定方針としており、2021 年度についてもこれに準拠した。

２．集計データにみられる結果のまとめ

２－１　授業規模別

50 名以下を「S」、51～100 名を「M」、101～150 名を「L」、151 名以上を「LL」として、社会学部 93 科目の結果をみてみたい。このとき、授業規模が大きくなるほど対象授業数が減るため、特に対象授業数の少ない L や LL クラスの平均値は、特定の授業の回答傾向に影響を受けている可能性も考慮する必要がある。例年は、授業規模が小さいほど評価が上がる傾向にあるが、2021 年度の評価は、S＞M＞L＞LL という単純な関係でないものが多い。

たとえば、Ⅲ3 の「この授業を受けて満足した」は LL が若干低く見受けられるが、他の 3 カテゴリー間の平均値の差は誤差の範囲といえる。興味深いのは、Ⅰ2 の「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」である。少人数科目ほど授業外学習時間が多くなると予想できるが、本アンケートの結果では S＜M＜L＜LL と全く逆の結果である。

Ⅱ3 の「この授業でよいと思った点はありますか」および、Ⅱ5 の「この授業で改善すべきだと思った点はありますか」について、授業規模との関連はほとんどない。Ⅱ3 において多く選択されたのは、①の配付資料と、③のパワーポイントであり、それに④の動画等の映像視覚教材が続く。Ⅱ5 については、授業規模にかかわらず約 6 割の学生は⑥の上記にあてはまるものがない、を選択しているが、相対的に選択した者が多かったのは①の配付資料であった。

またⅢ1「この授業から得ることができたものはありますか」のうち、①「自分にとって新しい考え方・発想」については、S と M は誤差の範囲の違いしかないが、L、LL の順に大きく減っていた。一方、②の「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」については S から L はほぼ同じであったが、LL は突出して高く、7 割を超えていた。

２－２　学年別

必修科目や講義科目がアンケートの対象となるため、必然的に回答者の学年が上がるほ

ど、回答者数が減る。アンケート対象科目の上級学年の履修者は、①単位は概ね取れているが、前向きな姿勢で更に授業を取る意欲のある者、②単位が足らず、やむを得ず履修している者（特に 4 年生の場合）に大別できよう。アンケートでは、そうした履修者のもともと持つ特性が回答傾向に反映される可能性がある。①と②のいずれが多いかは容易に判定できないが、アンケートに回答する学生は、どちらかといえば①のような前向きな学生が多いと考えるのが合理的である。一方、授業の理解度や満足度は、授業受講時の興味関心度や知識水準にも左右される。学年が上がるほど、一種の社会化の効果により、興味関心が高まり、ポジティブな態度となって現れやすくなる可能性も指摘できる。

Ⅲ3 の「この授業を受けて満足した」は、2 年・3 年のスコアはほぼ同じだが、概ね学年が上がるにつれて高くなる傾向を示している。これは上述の履修学生の特性や社会化効果を反映した結果と解釈できよう。

２－３　学科別

学科別については、社会学科と現代文化学科のスコアに大きな違いはないが、Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」、Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」およびⅢ3 の「この授業を受けて満足した」におけるメディア社会学科のスコアが若干低い。これはⅠ1「この授業に積極的に参加した」がメディア社会学科で（わずかだが）最も高いスコアであったことと重ねると、やや気になる結果である。一方で、Ⅰ2 の授業外学習時間が最も短いのもメディア社会学科である。これらの設問は相互に独立であり、結果も単純集計で項目間をクロスしているわけではないので、踏み込んだ解釈には慎重であるべきだが、前向きな姿勢を具体的な学習にどう結びつけるかという課題が、特にメディア社会学科で強く求められているのかもしれない。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

全体として、満足度が高く、授業に対して学生の受講態度も前向きであったとする肯定的な記述が多かった。また 2021 年度はコロナ対応のため、特に多人数授業を中心に、依然オンラインや対面・オンラインのハイブリッド、あるいはオンデマンド形式をとる授業が多く、それに関連する技術的な困難や、学生とのコミュニケーションの難しさ（特に学生の反応が見えにくいことや、配付資料共有の悩ましさ）に関連する記述が目立った。一方で、オンラインを活用した授業形態も 2 年目となり、教員、学生双方も慣れてきたことから、Zoom のチャット機能を使ってコミュニケーションを十分とることができた、課題には Blackboard などを積極的に活用しており問題ない、という記述もみられた。

オンライン授業に関連しない内容としては、教員の話し方や、配付資料の中身（内容の詰め込みすぎで、授業についていくのが難しい、など）についての記述が比較的目立った。また、授業によってはアンケートの回答数が少なく、結果に代表性があるのかといった記述も散見された。

３－２　「改善に向けた今後の方針」のまとめ

授業評価はオンライン形態を前提にしたものが多かったため、それを前提に、より技術的

な問題をクリアにして改善したいという記述と、特に兼任講師を中心に、次年度は是非対面で実施したい、という記述が多くみられた。本アンケートの実施対象となるような講義は多人数のものが多く、その中でいかにして学生の積極性を引き出すのか、例えばグループ学習や反転授業の導入など、個々の教員が様々な工夫を行っていることがうかがえた。

また学生の声の一部が、ガイダンスで説明した教員の意図をきちんと踏まえていない、という声も、わずかだが存在した。このあたりはオンラインゆえに学生の反応が見えにくいなど、学生とのディスコミュニケーションが原因となっているのかもしれない。また詰め込みすぎ、授業のペースが早い、といった声に対し、何らかの対応を行う、とした記述が比較的多くみられた。

４．今後の改善に向けて

2020 年度の総評はオンライン授業を前提にしたものであり、今回も同様にオンライン授業を前提とした回答が多くを占めている。しかし 2022 年度は、原則として対面での授業に戻っており、オンライン特有の問題は、自然に解消される可能性が高い。

ただし授業や履修者の抱える条件によって、依然オンライン形式、場合によってはハイブリッド形式を維持せざるを得ない。特にハイブリッド形式の場合、技術的な困難のほか、オンサイトの学生と、オンラインの学生の間で、課題の取り組みや授業へのコミットメントの平等性・公平性の問題が生じる可能性がある。もっとも、コロナが収束しても、コロナ以前の体制に完全に戻ることは考えにくく、一定程度オンライン技術を併用しながらの授業は継続してゆくだろう。その点で、対面授業とオンライン授業の併用や活用の仕方については、今後も継続した課題となるだろう。

社会学部では、授業期間中はほぼ月 1 回のペースで、必修授業や実習、演習などの授業形態のテーマを立てて FD を実施しており、授業で生じた（生じうる）様々な問題点の共有をはかっている。アンケートの結果は、全体として良好だと評価できるが、その中でも指摘された問題点については、FD などを通じて情報共有に努め、改善をはかっていきたい。

なお、授業によるが、アンケートの回答率の低さも問題であろう。回答率が低いということは、回答の代表性に疑念を生じさせる原因となる。アンケートの信頼性を高めるためにも、個々の教員の通知に頼るだけではなく、立教時間や Blackboard を通じて学生に一斉アナウンスするなど、回答率を高める工夫が必要とされているように思われる。

４－５　法学部

１．科目選定方針とねらい

法学部では、2011 年度より、全教員（専任・兼任）について授業評価アンケートを行うのは 3 年に 1 回とし、それ以外の年度は、本学で初めて授業を開講する教員および実施を希望する科目を対象にアンケートを行うことにした。

2021 年度は、本学で初めて授業を開講する教員および実施を希望する科目を対象にアンケートを実施する年度に該当するため、教員の希望を調査した上で、合計 12 科目につき授業評価アンケートを行った。なお、毎年度の全教員についての授業評価アンケートの実施をとりやめたのは、授業評価アンケートも回を重ねるにつれて、アンケート結果に対して授業改善に取り組むという姿勢が浸透しているため、3 年に 1 回のアンケートで、学生からの意見のフィードバックとしては十分であると考えられるためである。

２．集計データにみられる結果のまとめ

集計データを参照し、回答率、設問項目別平均値、授業規模別平均値、学年別平均値の結果についてまとめる。

回答率は、25.9%であり、低下していた昨年度（26.8%）から若干であるがさらに低下した。他学部の回答率と比較しても低い部類に属するが、2021 年に限ってみれば法学部だけが低いというより、回答率の高い学部と低い学部の 2 極化が見られる。2021 年度も、昨年度に引き続き、アンケート対象となっている講義科目ではオンデマンド配信やリアルタイムでの出席を求めない場合が多く、授業時間外に自主的に回答する必要があったことが原因ではないかと考えられるが、オンライン講義の影響については引き続き、全学における検討を注視したい。いずれにせよ、3 割弱の学生からの回答であることはこのアンケート結果の分析において念頭におく必要があろう。

設問項目別平均値においては、設問が変更されていること、対象講義科目の限定、さらに、全面オンライン講義の実施から一昨年度以前との単純な比較はできないが、昨年度と同様にすべての項目で 4.1 を超えており、かつ、昨年度に比してもポイントが上昇している項目が多い。オンライン授業への教員・学生双方の慣れによるものという面が大きいとしても、講義の質は担保あるいは向上できたと評価できる。

Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」（4.52）が極めて高い値を示している。Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」（4.51）、Ⅳ1「このオンライン授業は受けやすかった」（4.21）と高い。Ⅱ3「この授業でよいと思った点（複数選択可）」で選択された授業で用いられた教材に対する回答では、①「配付資料（授業のレジュメなど）」、③「パワーポイント」を挙げる回答が減少する一方、②板書を挙げる回答が多かった（40.0%）。昨年度と対象科目が異なるため単純な比較はできないが、ミックス型授業により物理的な板書が一部復活していること、Zoom 等に習熟した教員が電子ホワイトボードをより使いこなしていること等に対して、好意的な評価がなされているようである。総じて、教材に関する改善要望の割合は低い。Ⅲ1「この授業から得ることができたもの（複数選択可）」として、②「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」を 61.1%が選択したことをはじめとして、特筆すべきは④「学問的興味」（45.4%）や①「自分にとって新しい考え方・発想」（51.9%）を得られたと回答する受講者が多かった点である。学生の自主的な学習を促すという長年の課題に対し

て、2021 年度の講義は十分に働きかけたものといえよう。これらが、Ⅲ3「この授業を受けて満足した」（4.39）という高評価につながった。さらにオンライン講義についての懸案とされるⅣ2「このオンライン授業で出された課題の量は適切だった」については、ほぼ横ばいの 4.14（2020 年度は 4.15）という高い値であった。ただしⅠ2「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）という設問への回答は平均 1.27 時間（回答者 377 名）と減少（昨年度は 1.77、回答者 459 名）しており、オンライン授業を受ける側が「要領よく」こなすようになっている可能性については注視する必要があろう。

授業規模別平均値であるが、2021 年度は、51 名以上 100 名以下、101 名以上 150 名以下、151 名以上の授業がアンケート対象科目にそれぞれ 1 科目しかなかったため、有意な結果を得られることはできず、オンライン講義における授業規模と平均値の関係を知ることができなかった。

学年別平均値についてであるが、2021 年度は、学年ごとの平均値に顕著な差は見られない。従来は学年が上がるにつれて値が高くなる傾向があり、また 2020 年度は 1 年生の評価が著しく低かったのと異なる傾向を示している。1 年生がオンライン授業を予想した状態で入学してきていること、あるいは、2020 年度においては高校の授業でも不便があり、大学のオンライン授業はインフラが整っていて受けやすいという印象があったのかもしれない。一方、2 年生はⅣ1「このオンライン授業は受けやすかった」Ⅳ2「このオンライン授業で出された課題の量は適切だった」の値が他学年に比べて低く（それぞれ 3.95, 3.89）なっており、大学での対面授業を十分経験できていない世代の戸惑いが引き続き残っていることをうかがわせる。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

担当教員の所見では、各教員が、学生の率直な評価を真摯に受け止め、相対的に評価の低い項目があった場合については、次年度以降に改善を試みる姿勢を明らかにした。本年度はオンライン及びミックス型講義の運営について、2 年目ということもあり、動画の公開期間や発言の順序、話す速度、板書の見え方など、より細かい課題が意識・検討されている。

１）所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

本年度の自由記述欄は、オンラインないしミックス型授業について、授業が開始・続行に支障を来すような大きい技術的トラブルというより、ロジスティクスに関する指摘が多かったようである。特に事後の録画提供については、より長期の公開を求める声が散見される。パワーポイントやレジュメなどを配付することを求める声は引き続き多い。ミックス型授業を動画視聴する学生からの板書の見え方に関する指摘もあったようである。

２）上記１）に対する担当教員の所見のまとめ

多くの教員が、学生からの肯定的評価を今後の授業の励みとし、批判的な評価や要望に対して真摯な回答を寄せている。

３－２　「改善に向けた今後の方針」のまとめ

レジュメ・パワーポイントについて、見やすさ分かりやすさの観点から、改善を約束するコメントが多い。毎回の課題や小テストの実施頻度や成績評価対象とするかについては、よ

り良い形を模索しているとのコメントが散見される。他方で、結局のところオンライン授業のままでは改善に限界があり、早く対面授業に戻したいという率直な声もあった。

４．今後の改善に向けて

オンライン授業中心の環境が続いた 2021 年度の授業評価アンケートの結果は、数値の面では、オンライン（オンデマンド）授業の受講に関する自由度が昨年度と同様に高評価をもたらしていることがうかがわれる。動画視聴期間の延長など、より便利な環境を求める声が見られることも同様の傾向と言えよう。一方、自由記述欄に不満が噴出しているような印象はそれほどなく、学生側の順応が進んでいることを窺わせる。

昨年度との違いとしては、1 年生の回答の平均値が低くなかったということが挙げられるが、昨年度平均値が低かった 1 年生である 2021 年度の 2 年生の平均値が引き続き相対的に見て低く、彼らのフォローは引き続き重要な問題と考えられる。また逆に、2022 年度以降、学生は対面及びミックス型授業への再移行という更なる変化にさらされていることも注意しなくてはならない。すでに、2021 年度に対面式授業が行われた科目においては、空調や音響・板書等に関する、コロナ以前にはよく聞かれた不満が「復活」する萌芽も見受けられる。

2021 年度も、2020 年度に引き続き、オンライン授業支援 WG を中心に、教授会、基礎文献講読担当者会議等を活用し、教員間での情報共有が行われた。今後も、学生に主体的・積極的な学習を促す工夫を教員間で共有し、再び対面授業の実施が制限される事態となってもスムーズにオンラインへの移行ができるよう、各教員がオンライン授業のノウハウを維持できるようにしておく必要がある。また、対面・ミックス型授業においても、オンライン授業で培われた各種の ICT ツールの活用等の経験も活かしながら、よりよい学習経験を提供できる取り組みを深化させていきたい。

４－６　経営学部

１．科目選定方針とねらい

「立教時間」を用いたWeb方式による「授業評価アンケート」において、経営学部はこれまで通り 2～4 年次演習および BLP・BBL 関連科目を除いて、原則として全科目を対象に、春学期 38 科目、秋学期 33 科目で実施した。全科目を指定している理由は、「学生による授業評価アンケート」の結果は、授業を担当する教員に対して重要なフィードバック効果をもたらし、授業の質を高めるのに寄与するものと考えているからである。なお、BLP および BBL 関連科目について実施しない理由は、これらの科目が独自性の強い演習系の科目であることから、学部で独自に詳細なアンケートを実施しているためである。

２．集計データにみられる結果のまとめ

まず、回答者数について、履修者数13,106名に対し回答者数3,117名で、回答率（回答者数/履修者数）は23.8%だった。2020年度は秋学期のみ実施したが、その回答率は32.1%であり、また他学部と比較して回答率が最も低いことから、2021年度においてもWeb方式による実施の周知や実施の徹底が十分ではなかったと推測する。

次に、学生側の授業に対する取り組みについて、2020年度と比較して、「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」は4.32（2020年度は4.19）で、回答者はオンライン形態がメインであった2021年度においても積極的に授業に取り組んでいたことがうかがえる。ただし、アンケート実施科目の回答率が前述の通り23.8%とかなり低いことを考慮すれば、アンケートに回答するような積極的に参加する学生と、そうでない学生の取り組み方に差が生じている可能性が懸念される。

それ以外の授業に対する取り組みとして、「授業以外に学習した時間（Ⅰ2）」について、平均値は1.26時間（2020年は1.44時間）で、平均では、回答者は昨年度と比べてより少ない学習時間を取ったことになる。しかし、約15.7%の学生が0時間、約61.9%の学生が1時間と回答している一方、約22.4%の学生が2時間以上と回答している。また、授業規模別（回答者数別）にみると、50名以下が1.32時間、51名～100名が1.23時間、101名～150名が1.21時間となっており、2020年度にみられたような規模の違いによる大きなばらつきは2021年度にはみられなかった。学年別にみると、1年1.29時間、2年1.34時間、3年1.10時間、4年1.52時間となっている。2021年度においては、オンライン形態が定着する中で、適切な量の予習・復習につながる課題の工夫などが進んだと考えられる。

授業の進め方について、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」に関しては、2020年度の4.23から4.30へと評価が高まっている。規模別には、50名以下では4.29（2020年度4.27）、51名～100名が4.32（2020年度4.23）、101名～150名では4.20（2020年度4.21）となっており、それぞれの差は非常に少ないが、比較して規模が小さい方が、授業内容が明確だった傾向にある。「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」に関しては全体の平均が4.15（2020年度4.08）、規模別には、50名以下では4.11（2020年度4.14）、51名～100名が4.13（2020年度4.07）、101名～150名では4.04（2020年度4.05）となっており、これもそれぞれの差は非常に少ないが、比較して規模が小さい方が、教員の伝え方がわかりやすかった傾向にある。

教員の授業改善に向けて、「この授業でよいと思った点はありますか（Ⅱ3）」において①配付資料は54.6%、③パワーポイントは44.3%が評価しており、オンライン授業の中で教

員が工夫したことが推測される。また、「この授業で改善すべきだと思った点はありますか（Ⅱ5）」において56.9%が⑥上記にあてはまるものがないと回答しており、半数以上が評価していると推測できる。

学生が授業に期待するものに関して、「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」に関して、評価の多い順に②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識（67.2%）、①自分にとって新しい考え方・発想（47.4%）、④学問的興味（33.8%）、③自分で調べ考える姿勢（20.8%）となっており、いずれの規模、いずれの学年も同様の傾向がみられた。「③自分で調べ考える姿勢」を選択する学生が比較的少なかったことから、これを改善する必要があると考える。

「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」は 2020 年度の 4.16 から 4.25 に改善しており、オンライン形態が継続した中でも学生から高い評価を得られたといえる。規模別には、50 名以下では 4.24、51 名～100 名が 4.25、101 名～150 名では 4.17 となっており、それぞれの差は非常に少ないが、比較して規模が小さい方が、学生の満足度が高かった傾向にある。一方、学年別にみると、1 年 3.92、2 年 4.33、3 年 4.34、4 年 4.44 となっており、2020 年度に引き続き 1 年生の満足度が他の学年よりも低い傾向にある。低学年の学生や受講生数の多い授業に対する何らかの対応を引き続き検討していく必要があると思われる。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「授業評価に対する担当教員の所見」では、2 年目となったオンライン形態での実施継続に伴って、評価項目への教員自身の分析が多くみられた。

肯定的な評価・意見としては、講義内容・レジュメの量の調整、小テストなどを活用した学生の学びの確認、学生とのインタラクションの確保、ゲストスピーカーの招請や、講師自身の経験の共有などに関して、取り組みの効果への言及がみられた。

否定的な評価・意見としては、使用する教材や配付資料の改善、オンライン授業で効果的にグループディスカッションや課題・テストを行う方法、動画などの効果的な活用による効率的な授業運営、リアルタイムでの学生とのインタラクションの確保などの改善、などへの言及がみられた。2021 年度は、オンライン形態によって授業が円滑に進まなかったなどの指摘はなかった。

なお、講義によって所見における記述の有無や詳細度にも差がみられたため、今後の検討課題としたい。

３－２　「改善に向けた今後の方針」のまとめ

「改善に向けた今後の方針」においては、コロナ禍の影響によってオンライン形態が継続する場合への対応や、オンライン形態の利点をより活用する工夫（チャットやブレイクアウトルームの活用）などについて言及がみられた。また、課題を適切な量やレベルにすること、学生の理解を確認する方法の工夫など、学生の学びの質を確保するための教員側の前向きな姿勢が示されている。今後の FD 活動でもフォローしていきたいと考える。

４．今後の改善に向けて

2021 年度の評価結果をまとめると、比較的高い評価を得ており、オンライン形態においても、経営学部では講義の改善が着実に進んでいることがうかがえる。

今後のさらなる改善が望まれる点として、対面形態への再適応と、オンライン形態の活用がある。2022 年度は、オンライン形態は文部科学省の定める 60 単位の制限の順守が必要となったことで、教育効果の観点からオンライン形態で行うことが学びの質の向上につながる科目をオンライン科目として実施することとなり、多くの科目が対面をメインとするようになった。オンライン形態に慣れた学生に対して、「静粛性の確保」など対面で授業を行う際の規律づくり、より一層学生の授業へのエンゲージメントを高めることや、配慮が必要な学生へのミックス形態の授業運営など、教員に対してより複雑な対応が求められる。この課題については、各教員の創意工夫や情報・知識を共有してベスト・プラクティスを学び合うなどの対応が有効であろう。

また、学生自身から発せられたコメント（記述による評価部分）にもしっかり耳を傾け、講義を継続的に改善していく必要がある。学生による評価は、教員に講義の問題点を気付かせ、改善・発展を促すきっかけとなる。学生の評価は高いので、次年度もその傾向が途切れず続くことを期待したい。

４－７　異文化コミュニケーション学部

１．科目選定方針とねらい

異文化コミュニケーション学部では、2020 年度の方針を踏襲し、①新カリキュラムの検証、②全カリ英語教育新カリキュラムの導入および 2024 年度学部カリキュラム改編を視野に入れた必修・基盤科目の見直しの 2 点を科目選定方針とした。この選定方針のねらいは、各教員の授業改善という授業評価アンケートの主たる目的を達成するとともに、2024 年度の学部カリキュラム改編の参考資料とすることにある。但し、2020 年度秋学期に授業評価アンケート実施ずみの科目は今回の対象科目からは除いた。具体的な対象科目としては、A 科目：2020、2021 年度新設科目、B 科目：30 名定員を設定した科目、C 科目：必修・自動登録科目（1・2 年次）必修科目、D 科目：Seminar in English A,C,E,G,I,K である。これらの科目グループ毎に、学部でグループ集計を行った。

２．集計データにみられる結果のまとめ

本節では、集計データ全体の結果と上述した実施対象科目群別とを比較しながらまとめを述べる。ただし、A の新設科目は履修者数が定数に満たなかったので（5 名以下）アンケートは実施していない。

全体回答者数（延べ）は合計 824 名、学年別では 1 年次 582、2 年次 151、3 年次 70、4 年次 21 であった。

設問Ⅰ「学生の学習姿勢」（2 項目）では、「Ⅰ1 この授業に積極的に参加した」の全体平均は 4.45 だった。「Ⅰ2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」の時間量は、1.90 時間であった。科目別では、B 科目で、設問Ⅰ1 が 4.05、Ⅰ2 が 2.05 時間、C 科目、4.50、1.90 時間、D 科目で、4.25、1.72 時間だった。B 科目の学習姿勢の平均値が一番低かったが授業外学習時間は一番高く、C・D 科目と異なる傾向を示していた。

設問Ⅱ「教員の授業改善に向けて」（6 項目）では「Ⅱ1 各回の授業の内容は明確だった」の全体平均は 4.49、「Ⅱ2 教員の伝え方はわかりやすかった」の平均は 4.41 だった。科目別では、B 科目で、設問Ⅱ1 が 4.39、Ⅱ2 が 4.31、C 科目、4.51、4.45、D 科目で、4.29、4.04 だった。D 科目の教員の授業改善に向けての点数が一番低かった。

「Ⅱ3 この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】」では、全体として「配付資料（授業のレジュメなど）」（46.6%）、「パワーポイント」（40.9%）、「動画等の映像視覚教材」（19.8%）の評価が高く、この傾向は科目別でも同じであった。オンライン授業が継続していた状況にも加え、学生に提示される資料が充実していることは、学生にとって授業での良い点として評価されるようである。自由記述を見ても、重要な点が資料に書かれているので助かった、という類の感想は散見された。この点については、「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】」でも「配付資料（授業のレジュメなど）」が 8.5%で他選択肢より数ポイント高かったことにも裏付けられる。

他方で、「Ⅱ6」で記述された改善点としては、授業の進行に関する声が多く、学生間の言語レベルの差によるディスカッション時の問題や基礎演習科目での授業そのものの目的・目標の曖昧さによる困難、逆に聞き慣れないトピックを議論しなければならない事に対する難しさなどに関する声があった。

設問Ⅲ「学生が授業に期待するもの」（3 項目）では「Ⅲ1 この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】」の結果から、授業を通じて吸収したもので、「①自分にとって新しい考え方・発想」（56.1%）、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」（50.5%）、「③自分で調べ考える姿勢」（41.1%）であった。これに対して、「④学問的興味」を得た学生は 38.7%とやや低かった。この数字は昨年度よりも下がっている。「Ⅲ2 Ⅲ1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】」では、特定のトピックに関する知識の向上や、レポートの書き方を知ることができた等、具体的な事柄に関して得られる知識やスキルに対する学生の期待が伺えた。

設問Ⅳは学部設問項目（3 項目）で、Ⅳ1、Ⅳ2 は B 科目、Ⅳ3 は D 科目を対象とした。Ⅳ1「この授業の受講者数は適切だった」は 4.33 と高かったが、Ⅳ2「レジュメやレポート作成の力がついた」は 3.52 と昨年度よりも低かった。また、Ⅳ3「異文化コミュニケーション学部の専門領域（専門的な学び）に対する興味・関心が増した」も、4.03 と昨年度よりも下がっている。これらの回答結果は、上述した「学生が授業に期待するもの」の回答におおむね対応し、学生の授業への期待と実際に得られるものと間に、多少の開きがあるのかもしれない。しかしながら、全体的に見れば、アンケート結果は概ね高評価であった。

３．担当教員の所見に対するまとめ

担当教員の 7 割以上が所見を記載していた。いずれもアンケート結果を踏まえて所見を作成している。学生からの回答に感謝し、全体的な高評価を前向きに捉えながらも、満足度が低かった学生からのコメントや授業の進行に対する意見に対しては反省的なコメントも多く見られた。資料やプレゼンテーションの内容や提示のタイミングに関してさらなる工夫が必要であること、課題の分量、Zoom のブレイクアウトルームでの議論を含めた授業進行などに関する反省に言及している。

４．今後の改善に向けて

いずれの科目でも、担当教員は所見で個々のアンケート結果を踏まえ、不足している面の改善と高評価を得た面の更なる向上を記載している。教員が授業改善に関しては、配付資料やパワーポイントの配付時期を含む対策が、学生の学習に直結するようなので、継続的な改善や工夫が望まれる。他方で、対象科目の属性にもよるが、学生が授業に期待するものうちの「学問的興味」を得られたという回答がやや低かった点などに関しては、本学部の特色の一つである学際的な科目展開の強みをいかに発揮するかということも合わせ、今回の授業評価アンケートで得た結果を、2024 年度の学部カリキュラム改編に活かしたい。

４－８　グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター

１．科目選定方針とねらい

グローバル・リベラルアーツ・プログラム（以下、GLAP）では、演習系科目・夏季集中科目を除く GLAP の科目のほとんどについて授業評価アンケートの対象としている。今年度は 34 科目が対象であったが、GLAP はその規模の小ささから回答者数が 4 名以下の科目が半数を占めたため、データ集計の対象となったのは 17 科目、延べ回答者数は 247 名となった。秋学期のみの実施であった 2020 年度の 11 科目、137 名に比べると科目数、回答者数ともに 2019 年度の水準に戻ったが、Web 方式となって履修者数に比べて回答者数の割合が低い科目も少数ながら残っており、引き続き注意喚起が必要と思われる。

２．集計データにみられる結果のまとめ

設問項目別の平均値では、各項目で学年によらず 4.3 前後という高い水準を前年までに引き続き維持しており、授業満足度が高く、学生が授業のねらいを概ね実現できていることを示している。授業以外に学習した時間が 2.41 時間と昨年とほぼ同じ値を保っていることは特筆すべきことだろう。

設問項目別回答割合をみると、全体としては教員の授業運営は肯定的に受け止められていると考えられるが、2020 年度と比較するといくつかの変化がみられる。配付資料や板書の評価割合が下がったのに対し、パワーポイントや映像視覚教材の評価が上がっている。これは 2 年目となったコロナ禍でのオンライン形式での授業に教員・学生双方が習熟してきたことも背景にあるのではないだろうか。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2020 年度には科目担当者から所見の記入をいただけなかったケースが半数近かったが、今年度は集計対象となった 17 科目のうち 14 科目で所見を記入いただき、以前の水準に戻った。記入いただけなかった科目についても、少人数の科目が多い GLAP では回答者数も数名になり所見を付けることが困難であったケースもあると思われる。

提出いただいた所見では、オンライン形式にも配慮した様々な工夫が好意的に受け取られ高い満足度を得られたことを評価している。例えば、上記のパワーポイントや映像教材についての改善に加え、Zoom での投票機能やブレイクアウトルームの活用、オンラインでゲストスピーカーに現地から話を聞く、などである。

３－２　「改善に向けた今後の方針」のまとめ

技術的な改善点（課題提出の締切周知、パワーポイントの字の見やすさ、話す速度、オンライン環境への配慮など）に加え、授業の内容、運営に関してもいくつかの方針が提起されている。内容については、評判の良かった映像資料の使用を増やす、ビデオへのリンクを示す、などである。運営については、ディスカッションにより多くの時間を割く、Blackboard のディスカッションを利用する、Peer instruction を導入するなどのアイデアが示されている。また、専門知識を身につけるための工夫として、クイズの提示の仕方、解答を示す方法、フィードバックの方法などの様々な方法が提案されている。

４．今後の改善に向けて

できるだけ多くの科目でアンケートを実施し、カリキュラム点検作業の重要な素材を得るという目標は一定程度達成できたと考えられる。Humanities、Citizenship、Business という 3 つの専攻分野ごとで科目履修のあり方に違いがみられるかといった点については、回答者数が少なく集計対象とならなかった科目が多いため詳細な分析をおこなうには至っていない。しかし GLAP で実施した昨年のグループ集計結果と同様、一定の傾向はみられることはわかった。例えば、学生が授業から得たものの項目において、Humanities の科目に対しては新しい考え方・発想を得たという評価が多い一方、Business 科目には基本的な専門知識を得たという評価が多い。Citizenship 科目はその中間となっている。Ⅱ5 の授業改善の項目別回答割合にもこの傾向は反映しており、授業の目標に応じた改善が必要とされていると考えられる。今後も引き続き分析を進めていくと同時に、これらの点はカリキュラム点検作業にも生かしていきたい。

４－９　観光学部

１．科目選定方針とねらい

観光学部授業評価アンケート科目選定ルールと実際の選定手順を 2021 年 4 月 13 日開催の観光学部教授会において協議の上決定し、授業評価アンケート科目選定作業を実施した。

（選定ルール）

（1）原則として学部方針によって選定する 2 年間のうちに全教員 1 回 1 科目で実施する

（2）演習科目は対象としない

（3）複数教員担当科目は対象としない

（4）集中講義は対象としない

（選定手順）

①2020 年度に実施した教員を除外（2020 年度は秋学期のみ実施）
　科目としては実施していても担当者が変更していれば実施対象になる

②残った教員の科目から 1 科目選定（原則「選択科目 1＞2＞3＞（学部共通）＞学部自由」の順

③関連基礎科目で、コミュニティ福祉学部、学校・社会教育講座が管轄している科目は除外（「生涯学習支援論」「生涯学習概論」「社会教育経営論」「社会学」「法学」「心理学」）

この選定ルールに基づき、授業評価アンケートを実施する科目の選定を行った結果、59 科目（春学期 35、秋学期 24）で授業評価アンケートを実施した。

２．集計データにみられる結果のまとめ

授業評価アンケートの回答率が観光学部は 24.1%と全体（37.9%）に比べて低く見えるが、学年ごとの回答者の内訳を見ると、回答率が高くなりがちな 1 年生の割合が 15.6%と全体（61.6%）と比較して低いことに原因があることが分かる。これは、調査対象科目が 2 年生以上を対象とした科目を中心に選定されたことによるものであり、授業評価アンケートに対する学生の関心の低さを示すものではないと考えられる。

設問項目別平均値を通して、学生が自ら学ぶ姿勢が表れており、それが授業に対する満足度に結びついていることが予想できる。授業評価アンケートに積極的に回答する姿勢も授業への取り組み方の反映と受け止めることができる。

配付資料やパワーポイントなど授業を理解し復習するための教材に対する評価が高く、配付資料に対する改善要望が他の項目に比べて高いことから配付資料に対しての期待が高いことが分かる。自ら予習し、授業中にノートを取り、復習することが望まれるが、専門的な知識を学ぶにあたり分かりやすい手元教材があることが期待されていることが分かる。授業の内容に関しては、基本的な専門知識が得られたことに加えて新しい考え方や発想が得られたと学生自身は考えており、学問的興味が高まったと感じている学生も 3 分の 1 以上存在することから、大学で学ぶ意義を多くの学生が実感していることが確認できる。

学生の学習姿勢は両学科で比較しても大きな違いが見られないが、授業改善についての期待回答を通して観光学科学生の方が交流文化学科学生よりも授業の教授方法についての満足度が若干高く、交流文化学科の学生が選択する授業科目の講義内容が難しいのか、理解のために板書やパワポの分かりやすさの向上を期待していることが分かる。

授業規模で見た場合の授業の分かりやすさや満足度は、授業規模が大きいほど高い傾向が若干見られるが、その理由は不明。個別の科目の特性が影響している可能性がある。少人数規模の授業ほど専門性が高くなるであろうことから自ら調べ考える姿勢が見られるようである。授業規模が大きくなると板書やパワポが見え難くなるためか配付資料や視覚教材などを通して学ぶことを学生たちが期待していることも分かる。

授業内容の明確さについては、大学での学びに慣れていない 1 年生で多少低い評価になっているが、学年進行にともない大学での学び方が理解できるようになるためか授業内容の明確さや教員の伝え方についての評価が向上する。配付資料やパワポに関しては、高校での学びが染み込んでいる 1 年生と大学での学びに馴染み始めた 2 年生以上とで傾向が少し異なり、演習配属の始まる 2 年生になると言語系の授業が減り専門的な授業が増えてくるため学問的興味が湧き始めていることが分かる。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　春学期

コロナ禍で実施するオンライン授業ではあったが、2 年目に入り概ね大きな問題なく授業が行われていたことが窺える。チャット機能を利用した質問受付や意見表明などが行われ、共有画面で資料やパワーポイントを表示し授業を進める形で、パワポの見やすさなどについての学生側からの意見が示され、もっと詳細に記載して貰いたいといった希望も出ていたが、教員によっては学生が自ら加筆してノートをとり完成させることを期待する場合もあり、一様に形式を揃えてしまうべきではないが、教員の意図が十分に学生に伝わるかどうかは分からない。対面時よりも Blackboard を活用できた経験を対面授業に戻った後でも活かしたいという教員側の声も複数あり、さまざまなツールを教員が駆使できる教育機会となったことが分かる。

３－２　秋学期

オンデマンド授業では、熱意のあまり規定の授業時間 100 分を超えてしまうことがあったことを反省されている先生がおられた。学生たちが参加しやすいブレイクアウトルームを利用したグループワークが好評であったことで今後も利用を考えたいという意見があった。教員や講師と学生との双方向コミュニケーションにより学生の満足感が高まることを認識し、今後も継続していくという教員のコメントもあった。

履修者の専門知識レベルが不明で、初学者向けに設定したことで一部の履修者の期待に応えられなかったという反省意見もあった。また、配付資料を学生が個人のプリンターで出力すると図表が小さくなり使いにくいという課題が生じていたという報告もあり、印刷物を実際に配付できる対面授業の良さも認識されている。著作権や個人情報に配慮して資料をネット上でデータ配付することを控えた教員から、現物データでなくデータの入手方法を提示するなど別の手段を早い段階で示せればよかったという意見もあった。

オンライン故に多彩なゲストを招くことができ、学生からも好評で学習効果が上がったことから今後の授業運営に活かしたいという意見や、資料配付を望む声に対し、自ら学び、ノートをまとめ、学びを深めるための学習が楽しく行えるための工夫を考えてみたいという教員側の積極的な意見もあった。

４．今後の改善に向けて

このように、授業評価アンケートに記載された意見に応えるだけでなく授業中に学生から出された意見や質問に応える形で先生方が工夫をして下さり、さまざまな改善がなされてきたことが分かるとともに、オンライン授業を活用した新たな授業形態の模索が検討され始めていることが分かる。学生が自ら学ぶ姿勢を育てるべく学ぶヒントを提供するとともに、学ぶ対象の面白さが理解できるよう各分野の専門家たちの声を直接聞き質疑応答や議論の機会をより多く提供できるように検討を進めていく必要がある。

４－１０　コミュニティ福祉学部

１．科目選定方針とねらい

2021 年度における科目選定方針は、以下の通りである。

（1）学部専任教員（助教含む）1 科目以下の実施を原則とする

（2）資格科目を優先する

（3）演習科目は対象外とする

（4）昨年度実施科目を優先する

以上の結果、32 科目を授業評価アンケートの対象科目とした。

２．集計データにみられる結果のまとめ

回答率は 46.1%であった。昨年度は学部の中では比較的回答率が高いものの、昨年度の 53.5%と比較すると今回は大幅に減少した。オンライン授業が 2 年目となり、アンケートへの回答へのモチベーションが低下したことが要因として考えられる。授業は対面に戻ったが、アンケート自体はオンラインでの実施を継続するために、今後は回答率をあげるための方策を検討することが必要である。

設問項目別平均値では、「Ⅰ　学生の学習姿勢」のうち「この授業に積極的に参加した」（Ⅰ1）は、4.17 である。また「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」（Ⅰ2）は 1.20 であり、昨年のコミュニティ福祉学部の平均値を下回る結果となった。オンライン授業が 2 年目となり、授業に積極的に参加する意欲が低下してしまったこと、昨年度の学生の様子を踏まえて、教員側が課題の量などを調整したことが理由ではないかと思われる。

「Ⅱ　教員の授業改善に向けて」（「各回の授業内容は明確だった」（Ⅱ1）【4.28】、「教員の伝え方はわかりやすかった」（Ⅱ2）【4.20】）と、「Ⅲ　学生が授業に期待するもの」（「この授業を受けて満足した」（Ⅲ3）【4.26】）については、すべての項目において昨年度よりも若干低い数値を示しているものの、おおむね高い評価であった。コミュニティ福祉学部では、一昨年度オンライン授業のノウハウを持つ教員による「オンライン授業講習会」を FD 委員会として 2 回開催し、その様子を昨年度に着任した新任の教員（兼任講師含む）に共有をしてきた。こうしたことが今年度も高い評価を得られた背景にあると思われる。

設問項目別回答割合では、「Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか」のうち、「配付資料」（Ⅱ3①）【60.5%】、「パワーポイント」（Ⅱ3③）【40.5%】、「動画等の映像視覚教材」（Ⅱ3④）【28.6%】の項目が高い値を示しているが、「配付資料」は昨年度よりも大きく改善しているものの、残りの 2 つ（パワーポイント、視覚教材）については、値が大きく減少している。オンライン授業が 2 年目となり、より視覚的な工夫を凝らした授業の展開が求められていることを示唆しているといえる。「Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか」については、昨年度と同じく「配付資料」（Ⅱ5①）【13.6%】の割合が高かった。ただし、若干ではあるがこの数値は昨年度よりも低下している。昨年度の FD 委員会において、配付資料に対する学生の改善要求が高いことを教員全体にアナウンスしたことが改善につながったものと思われる。この点については再度教員に周知することでさらに改善を図っていきたい。

「Ⅲ　学生が授業に期待するもの」では、「自分で調べ考える姿勢」（Ⅲ1③）【21.2%】、「学問的興味」（Ⅲ1④）【37.2%】といった、学生の主体的・能動的な学習態度に関する項目の

割合が昨年度に引き続き低い。繰り返しになるが、これはオンライン授業が長期化したことによるところが大きいと思われる。対面授業が再開された今、こうした学びの主体性をどのように回復していくかがより重要になってくると思われる。

学科別で、設問項目別平均値、設問項目別回答割合をみると、前者はおおむねどの項目においても同程度の評価であるが、後者については学科間で割合が大きく異なる項目がみられる。具体的には、「配付資料」（Ⅱ3①）、「パワーポイント」（Ⅱ3②）、「動画等の映像視覚教材」（Ⅱ3④）、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」（Ⅲ1②）、「自分で調べ考える姿勢（Ⅲ1③）等の項目である。昨年度よりも割合がばらつく項目数自体が増えている点は、学部全体の教育の平準化という観点から考えたときに問題である。パワーポイントなどはほとんどの教員が使っているものと思われるために、学科間で授業内容の「見える化」を行い、高いレベルでの平準化を目指す必要がある。

なお、昨年度も指摘したことであるが、今回のアンケートは、回答率が大幅に低下した昨年度よりもさらに回答率が低くなっている。アンケートに回答している学生は、意欲的な学生に偏っていると思われるため、今回のアンケートの数値についても、こうしたバイアスを考慮したうえで受け止める必要があることを再度強調しておきたい。

３．担当教員の所見に対するまとめ

教員の所見は、アンケートの内容を熟読し、真摯に受け止めている様子が伝わってくる内容であった。学生に対して回答への感謝を記したメッセージも散見され、授業評価アンケートの実施を前向きに捉えていることが伝わってくる内容が多かった。また、改善点に関する評価や意見についてもほとんどの教員がそれらを真摯に受け止め、今後の授業運営に生かそうとする姿勢がみられた。

一方で、担当教員の所見が空欄であった教員が散見されたのは問題である。学生にアンケートの回答を求めるのであれば、教員側もその回答に対してコメントをする必要があるのは言うまでもない。この点については今後学部で徹底を図る必要がある。

４．今後の改善に向けて

昨年度よりも回答率がさらに低下したことを受け、多様な学生の意見を拾えるようにアンケートの回答率を上げることが必要である。

学生の主体的・能動的な学習態度に関する項目の割合がさらに低下したことは、対面授業となった今、学生の失った学習意欲をどのように取り戻すかを全教員が考える必要性があることを示している。学生とより密にコミュニケーションをとることによって、学びへの意欲を学部全体で涵養していくことが求められている。また、学科間で回答割合が大きく異なる項目があったことをうけ、学科を越えて授業の教材の作り方、展開の仕方などのノウハウを共有する場を創り、学科間の授業の平準化を目指すことが今後は必要となろう。

なお、アンケートの自由記述の中に、授業内容とは直接かかわらないような批判が一部ではあったがみられた。授業評価アンケートを双方にとって有意義なものにするためにも、何のためにアンケートを実施しているのかについて、改めて学生に周知する必要もあると思われる。

４－１１　現代心理学部

１．科目選定方針とねらい

学部の専任教員が担当する「学部統合科目」、「初年次教育科目」、「講義科目」及び「共通シラバスにより展開される一部の科目」を選定方針とし、23 科目をその対象科目としたが、そのうち回答者が 5 名以上にならなかった科目が一つあったため、実施したのは 22 科目であった（春学期 7 科目、秋学期 16 科目）。なお、原則として「演習科目」「実験科目」及び「複数教員担当科目」は実施対象外とした。

２．集計データにみられる結果のまとめ

回答率

全学的にも前年度から低下しているとは言え、本学部の 29.0%は、全学平均の 37.9%と比較すればかなり低い値と言える。感染状況の授業形態への影響、あるいは回答の形式に起因しているのかもしれないが、これまで以上にアンケート実施に向けて学生への周知が求められる。

Ⅰ：学生の学習姿勢

「Ⅰ1：この授業に積極的に参加した」の平均値は 4 を超えており、学生は概ね積極的に授業に取り組んだと言える。オンライン化に伴い学生の学習時間の増加傾向があるかと思われたが、「Ⅰ2：この授業に関連して、授業以外に学習した時間」は、学部平均値は 1.15 時間で、1 時間は超えているものの、昨年より短くなっている。映像身体学科は 0.91 と 1 時間に満たないが、いずれの学科も対面授業の増加で、オンライン科目で多く設定されていた課題が抑制された影響もあるのではないかと思われる。

Ⅱ：教員の授業改善に向けて

前年度同様「Ⅱ1：各回の授業内容は明確だった」「Ⅱ2：教員の伝え方はわかりやすかった」という設問に対して、平均値は 4 を超えている。学生の授業への参加意識、そして理解度が高くなるためにも明確さとわかりやすさは重要な要素なので、担当教員もこの点を意識して授業にのぞみ、今後もこの平均値を維持できるように心がけるべきと思われる。「Ⅱ3：よいと思った点」については、配付資料と回答することが多かった。動画等の映像視覚教材に関する回答は自由記述で肯定的な意見が見られたが、その反面、技術的な問題への言及もあった。

Ⅲ：学生が授業に期待するもの

これも昨年度と同じく「Ⅲ3：この授業を受けて満足した」の平均値は 4 を超えており、高い満足度が維持されているのは教育効果から良い傾向であると思われる。「Ⅲ1：この授業から得ることができたものはありますか」についても、新たな考え方や発想、授業分野に関する知識、それに学問的な興味という回答が多く、こちらの期待通りの学習がなされている。

Ⅳ：学部等による設問

2021 年度は、二つの質問を行った。「Ⅳ1：このオンライン授業の運営は適切になされた」「Ⅳ2：（対面のみ）この授業の設備・環境に満足している」である。いずれの得点も平均値が 4 を超えており、これらの回答からも、授業が適切に運営されており、学生も学習環境におおむね満足していると判断することができる。

学科別データ、学年別データ、授業規模別データ

学科別に関しては、特に大きな学科間の差はないと言えるが、あえて差があるとすれば「Ⅲ1：授業から得ることができたもの」として、映像身体学科では「新しい考え方・発想」に多くの回答があり、心理学科は「授業分野の専門知識」の方に多くの回答があった点である。これは学科のカリキュラムの特色を表しているとも言えるのかもしれない。

学年別データ、授業規模別データに関しては、特記すべき特徴はないが、50 名以下の学生数とそれ以上の授業規模を比較すると若干ではあるが、小規模授業の方が、「新しい考え方・発想」を得られやすくなり、大規模授業の場合「授業分野の専門知識」が得られるという傾向にある。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

オンラインの授業においては学生からの直接的な反応が少ないことやオンラインと対面を組み合わせた形式への戸惑いを感じながらも、思いのほか好意的な評価の回答に安堵している所見が多くあった。配付資料などの充実、授業目標の明確さについて手応えを感じる所見なども多く見られた。

また、その場で書かせる筆記試験の重要性に関して、レポート試験との比較で説明している所見、あるいは、声の出し方についての学生の指摘に関して、大学での学びの場で重要だと感じるポイントは多様であり、授業のポイントを声を大きめにして強調するのではなく、さまざまな視点からの学びがあることを知ってほしいとの教員から学生への意見は、今後、教員が講義を行う際の参考になるだろう。

３－２　「改善に向けた今後の方針」のまとめ

教員それぞれが学生からの意見に真摯に向き合い、今後の改善に向けた意見が述べられていた。例えば、「内容が難しすぎる」というコメントに関しては、授業の前提となる知識や専門用語についてあらかじめ説明しておくという所見があった。また、映像資料をもう少し使ってほしいとの意見も散見され、スライド、レジュメ、映像資料など教材の充実を今後の課題とする所見が多く見られた。

４．今後の改善に向けて

2021 年度は、コロナ禍が続く中でオンライン中心の授業形態から対面の再開にむけた対応が迫られるという状況であったが、学生からの回答は概ね高い評価を得ていたということもあり、教員側の視点でも一定の成果が見られたと言える。それだけではなく、授業運営の現状維持にのみ満足してしまうのではなく、学生からの記述回答への応答も適切になされ、今後に向けた具体的な対処も示されていた。教員が自身の行った授業に対して受講する学生から寄せられたアンケートに適切に応答する「場」をつくり、それを学生に開示し、その「場」を維持することの重要性を強く感じた。

受講する側のアンケートの数値や意見が反映されるだけではなく、それに授業を行う側がどのような応答をしたのか、そのことが問われているということである。シンプルなことだが、この学生と教員の「交流の場を開示すること」がうまくなされているのかが、学びの

現場にとっては一番重要なことなのだと思う。

2021 年度は授業形態がオンラインから対面へ移行しながらも、内外の状況からその形態さえも定まらない状況での授業運営を迫られる局面もあった。その状況の中で教員は最善の授業方法を模索し、それに応じて、学生も柔軟に最適の受講態度でのぞんでいた。そのような意味では、この年は授業形態の移行期にあたるのではないかと思われる。それゆえに、授業方法への本質的な問いかけや新たな形態に対応する工夫がなされ、思わぬ効果が生まれた年度だったとも言える。

この教育現場での貴重な経験が今回の授業評価アンケートには情報として残されている。それを生かし比較対象とするためにも、次年度に向けて、慎重で適切なアンケートの実施が求められる。

４－１２　全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目

１．科目選定方針とねらい

2021 年度の「全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目」では、

(1) 総合系科目「学びの精神」(FH)

(2) 総合系科目「多彩な学び」の以下 5 カテゴリにおける講義系科目（コラボレーション科目を含む）および F 科目

(①人間の探究（FA)、②社会への視点（FB)、③芸術・文化への招待（FC)、④心身への着目（FD)、⑤自然の理解（FE))

を対象に 1 教員 1 科目の実施とする。

また、これらに追加して

(3)「立教ゼミナール発展編」の全科目

(4) 総合系科目「多彩な学び：⑥知識の現場（FV)」におけるグローバル教育センターが提供する全科目

を対象に、授業評価アンケートを実施した。実施合計は 351 科目であった。

２．集計データにみられる結果のまとめ

全学共通科目・総合系科目の 2019 年度⇒2020 年度⇒2021 年度のアンケート実施科目の延べ履修者数の推移は 41,618 名⇒23,929 名⇒40,972 名であり、回答者数の推移は 27,281 名⇒9,539 名⇒11,883 名（1 年次 5,565 名、2 年次 3,326 名、3 年次 2,051 名、4 年次 836 名、その他 105 名）であり、回答率の推移は 65.55%⇒39.9%⇒29.0%となっている。2020 年度の履修者数が激減しているのは、2020 年度春学期に新型コロナウイルス感染防止のため「授業評価アンケート」を実施できなかったためである。総合系科目のうち、「学びの精神」の多くは春学期開講であるため、「学びの精神」の多くで「授業評価アンケート」を実施できなかったことが、2020 年度の履修者数の激減に繋がった。このため、2021 年度の数値については異常値の 2020 年度とだけでなく 2019 年度とも比較する必要がある。2021 年度は履修者数について 2019 年度に近い数字に戻った一方で、回答者数については 2020 年度から微増したにとどまる（2019 年度の半分未満である)。これは、履修者数の推移では説明のつかない回答率の激減による。なお、総合系科目の履修者数 40,972 名は全学共通科目・言語系科目の履修者数 26,526 名より大きい数字である（14 の学部等の中でも最大）が、総合系科目の回答者数 11,883 名は言語系科目の回答者数 18,106 名より小さい数字（14 の学部等の中で 2 番目）である。大学全体で回答率の減少傾向についての対策が求められる中、総合系科目と言語系科目の回答率の違いも際立っている。

「学生の学習姿勢（Ｉ)」については、2021 年度の数値は、2020 年度、2019 年度よりも高くなっている。2019 年度⇒2020 年度⇒2021 年度の「この授業に積極的に参加した（Ｉ1)」の平均値の推移は、4.11⇒4.22⇒4.24 となっており、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ｉ2)」の平均値の推移は、0.92⇒1.30⇒1.32 となっている。前述のように、2019 年度から 2020 年度にかけて回答率が激減しており、これに反比例するかのように「Ｉ1」及び「Ｉ2」の平均値が大きく向上し、2020 年度から 2021 年度への回答率の微減に応じるかのように「Ｉ1」及び「Ｉ2」の平均値が僅かに向上している。回答率の減少と平均値の向上から、「学生の学習姿勢（Ｉ)」について高評価ではない学

生が「授業評価アンケート」に回答していない傾向があるかもしれない。

「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」のうち「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」の平均値の 2019 年度⇒2020 年度⇒2021 年度の推移は、4.23⇒4.37⇒4.33 となっており、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」の推移は、4.35⇒4.27⇒4.24 となっている。「Ⅱ2」の推移は、コロナ禍下でオンライン授業における情報伝達手段の制約が、足枷となっていることを推測させる。他方で、「Ⅱ1」が 2019 年度より改善（2020 年度と比べると微減であるが）しているのは、コロナ禍下で教員が各回の見取り図を示すように努力した結果であるかもしれない。コロナ禍下のオンライン授業が、教員の授業改善にとって、プラスとマイナスの両面に表れている、と解釈できるかもしれない。また、「この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数回答可】（Ⅱ5）」の「⑥上記にあてはまるものがない」の割合が 61.9%となっており、学生の多くは教員が講義に関して配付資料やパワーポイントに関し工夫し改善を加えていることについて好意的に評価している。

「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」のうち「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」の平均値の 2019 年度⇒2020 年度⇒2021 年度の推移は、4.15⇒4.33⇒4.29 となっている。コロナ禍下のオンライン授業で学生の満足度が上がったという解釈の可能性もある一方で、「学生の学習姿勢（Ⅰ）」でも触れたように、「Ⅰ」について高評価の学生が「授業評価アンケート」に回答している傾向があるかもしれず、そうした学生の満足度が高い、という可能性もあるかもしれない。また、「この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】（Ⅲ1）」で「⑤上記にあてはまるものがない」の割合は 2.0%であり、殆どの学生が、新しい考え方又は専門知識又は調べ考える姿勢又は学問的興味を得ることができたことが窺われる。

「学部等による設問（Ⅳ）」に関し、総合系科目のうち、「学びの精神」科目のみを対象として 2 つの項目が設けられた。「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた（Ⅳ1）」の平均値の 2019 年度⇒2020 年度⇒2021 年度の推移は、4.19⇒4.27⇒4.32 となっており、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた（Ⅳ2）」の推移は、3.96⇒4.03⇒4.04 となっており、何れも数値が向上している。特に、2021 年度についての「学びの精神」受講生の殆どが 1 年次生であって 2020 年度に高校でコロナ禍を体験していたであろうことを考えると、更に、2020 年度の「学びの精神」の「授業評価アンケート」の対象となったのは数少ない秋学期開講科目だけであったことを考えると、2020 年度と 2021 年度の数値があまり変わらないこと自体も、特筆に値する。加えて、2019 年度の平均値よりも高いことは、コロナ禍にあまり関係なく、1 年次生が高校と大学との違いを感じ大学で受講する心構えを作ることができている、という傾向を示している。なお、2019 年度までは「教室の大きさ」「受講者数」「教師の環境や設備」についても設問項目を設けていたが、2020 年度、2021 年度のオンライン授業環境下では比較できなかったことも、念のため書きとどめておく。

「学科等別」に細分化すると、「多彩な学び 6（知識の現場）」は、「学生の学習姿勢（Ⅰ）」「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」の平均値が、他（「学びの精神」「多彩な学び 1～5」）と比べて際立って高い。これは例年の傾向と同様である。とりわけ、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」の平均値は、総合系科目全体の 1.32 時間を大幅に上回る 4.23 時間となっている。

授業規模別に比較すると、「学生の学習姿勢（Ⅰ）」では、「50 名以下」、「101～150 名」、「51～100 名」の順に平均値が下がっていく傾向は 2020 年度と共通している。2020 年度

は「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」及び「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」について授業規模が大きいほど平均値が上昇する傾向があったが、2021 年度は、「101～150 名」、「50 名以下」、「51～100 名」の順に平均値が下がっていく傾向があった。

学年別に比較すると、例年、4 年次生が高い数値を付ける傾向がある。2021 年度も同様の傾向が観察される。但し、「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた（Ⅳ1）」の平均値は当然ながら 1 年次生が最も高い。

３．各カテゴリの総評

３－１　学びの精神（FH）

6 年目を迎えた 1 年次生対象の「学びの精神」は、大学での学びのスキルを身に付け、主体的に学ぶ姿勢を養い、立教生として居場所感を醸成することを目的としている。2020 年度は春学期科目がアンケートの対象外となったため、春学期の開講が中心である「学びの精神」のアンケート実施科目数は 24 科目にとどまったが、2021 年度は 94 科目で実施することができた。ただし、どの科目においても回答率は総じて低い傾向にあり、全学生の意向を反映できているかどうかはわからない。また 2021 年度春学期は、授業開始当初は対面での授業が実施されたが、すぐにオンライン授業やミックス型授業に移行するなど、学期中にたびたび授業形態が変更されたため、このことへの対応が教員・学生双方に影響を与えていることも否めない。

「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」は、初年度の 2016 年度は 0.68 時間と少なく、学びの精神の趣旨が徹底されていないのではないかと懸念されたが、2017 年度の 0.75 時間、2018 年度の 0.78 時間、2019 年度の 0.84 時間、2020 年度の 1.32 時間と増加した。これに対し 2021 年度は、1.29 時間と 2020 年度に比べると微減した。とはいえ 2020 年度とそれほど変わらない時間数を確保しており、授業時間外での学習がしっかり行われたことが確認できる。2021 年度もオンライン授業の回数が多かったためにこのような結果となったのではないかと推測されるが、今後もこうした傾向が続くことが望ましい。「授業改善に向けて（Ⅱ）」のうち、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」が 4.21、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」が 4.08 となっており、どちらも「多彩な学び 1～5」と比べて低い数値となっているが、これは学期途中で授業形式がたびたび変更されるなどの混乱があったことに起因するのではないかと考えられる。教員が用意した配付資料や動画・音声の視聴などは高い評価を受けているが、ホワイトボードを利用した板書などは Zoom によるオンライン授業では評価が低く、また教員の通信環境に対する学生の不満も散見される。「学びの精神」は対面授業が原則であるため、新型コロナウイルス感染症の収束とともにこうした不満は解消されるであろう。

「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」については、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」が 4.11 となっており、2020 年度の 4.26 と比較すると若干低い数値だが、2018 年度の 3.93 や 2019 年度の 4.06 と比べると高い数値になっている。大学での学びの導入となる科目として一定の評価を受けていると思われる。オンライン授業においても、ブレイクアウトセッションなどを利用した学生同士の議論・討論の場が確保されたことが、学生には高評価であった。また「この授業から得ることができたもの（Ⅲ1）」では「①自分にとって新しい考え方・発想」が 61.6%で、「多彩な学び 1～5」の平均 60.0%よりも高い数値が出ている。「③自分

で調べ考える姿勢」が 17.9 と 2020 年度の 22.1 よりも低くなっているが、「多彩な学び 1～5」の数値と比べて遜色はなく、「学びの精神」科目が有効に機能していることを感じさせる。

「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた（Ⅳ1）」については 4.32 と 2020 年度の 4.27 よりも高い評価を受けているが、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた（Ⅳ2）」については 4.04 と、Ⅳ1 と比較して 0.28 ポイント低い評価であったことは例年の傾向を踏襲しており、2021 年度も、高校との学びの違いは分かったが、大学で学ぶ心構えができたとまでは言えないと感じている学生が多いことを示している。「学びの精神」を履修した 1 年次生が、2 年次以降に自信をもって大学での学びを実践できるようになることを期待したい。

RIKKYO Learning Style は 2022 年度から 7 年目に入った。1 年次に履修した「学びの精神」がその後の学びにどのような影響を与えるのか、卒業時に振り返ってみて「学びの精神」が役立ったと感じているのかなどを問うことで、検証していく必要があるだろう。

３－２　多彩な学び

１）人間の探究（FA）

「人間の探究（FA）」の全 57 科目のアンケート結果を通観して、まず感じられることは回答率の低さである。50%を超えるものは 9 科目に過ぎない。20%を下回る科目も少なくない。今回のアンケートは立教時間で行ったが、今後も立教時間で実施する場合は、授業時内に回答させるなど回答率を上げるための工夫が求められる。ただし、担当教員のコメントにもあるように、オンデマンド授業の場合は、アンケートの回答率を上げることは難しい。

全体的に科目に対する受講生の取り組みが数値に表れる「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」は、肯定的な回答（5、4 の合計）が 80%を超えるものが大半を占める。79%以下は「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」では 8 件、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」では 5 件、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」では 10 件、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」では 11 件に過ぎず、その多くが 70%台をキープしている。回答率の低さのため、アンケートに応じるだけ授業に積極的に臨んだ学生が回答しているという可能性もあり、手放しには喜べないかも知れない。回答しない受講生が否定的な意見（2、1 の合計に相当）するとしたら、深刻な事態であるともいえる。「この授業で改善すべきだと思った点はありますか（Ⅱ5）」では、「⑥上記に当てはまるものがない」とする回答が多く、このアンケート項目の見直しが必要であると考えられる。改善点として出された自由記述（Ⅱ6）では、求められた課題やリアクションペーパーの負担の重さを訴えるものが少なくなかった。また資料の提示の遅さや授業後の復習で資料を提示される期間の短さなどが指摘されている。

「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」について、回答率 50%を超える科目に限定して調べると、平均が 1.4 時間を超えるものが 9 科目中 8 件、そのうち 2 時間以上は 2 件となる。回答率が低い科目と比べて、授業時間外の学習時間が長いという傾向が見られる。

授業に対する受講生の感想として、ゲストスピーカーに対する評価が高い。担当教員のコメントにも、ゲストスピーカーの授業効果について述べているものがある。アンケート項目

にはゲストスピーカーに関するものがない。ゲストスピーカーは予算的手当を行い、その人選についても全カリ委員会でチェックするなどの手間を掛けている。「この授業でよいと思った点はありますか（Ⅱ3)」にこうした項目も追加すべきであろう。

２）社会への視点（FB）

「社会への視点（FB)」は計 66 科目に対してアンケートが行われた。点数評価の結果を見ると、多くの項目が全学共通科目の平均値と同等かそれを超える傾向にあり、下回る項目は限られていた。「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2)」はやや低いが、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1)」「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2)」「この授業を受けて満足した（Ⅲ3)」といずれも高かった。関連項目の「この授業でよいと思った点はありますか（Ⅱ3)」においては、全学共通科目の平均値と比べて「③パワーポイント」「⑤シラバス」の評価が高く、これらの点が、授業内容の明確さを担保していると考えられる。なお、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3)」は、前年度やや低下した経緯があり、今年度は回復したと言える。関連項目の「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1)」を見ると、全学共通科目の平均値と比べて「①自分にとって新しい考え方・発想」「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」「③自分で調べ考える姿勢」のいずれも高い。ただし、2020 年度新しく採用されやや低い結果にあった質問項目「④学問的興味」のみ 2020 年度同様低いままであった。「社会への視点」というカテゴリの性格とあわせて、継続して傾向を注視していく必要がある。

所見票については、科目担当者の記述から、オンライン授業への対応を含め、これまでの経験の蓄積が十分にいかされ、改善の試みがなされていることが見て取れる。とりわけ、オンライン授業における「双方向性」を担保するためになされているフィードバックに時間がかかることに関して、改善の必要を指摘する記述が見られた。フィードバックの質を落とさずに限られた講義時間の中でバランスを取ることが次の課題として求められていると言える。また、多くのゲストスピーカーが登壇することで肯定的な評価を得ている科目があるが、その利点を維持しつつ、全体としての統一的な授業構成を目指す必要があるという主旨の記述もあった。こうした点も、これまでの経験の蓄積にもとづいて提示されているものと考えられる。

３）芸術・文化への招待（FC）

「芸術・文化への招待（FC)」を通観してまず気づかされることは、他のカテゴリと同じように履修者数に対する回答者数の低さである。春・秋学期を通して 40 科目の内、回答者数の割合が 50%を超えるものは 8 科目にとどまる。2021 年度のアンケートは立教時間を用いたオンラインで行ったことが、この回答率の低さに影響しているものと推定される。オンラインでアンケートを行う場合、授業時間内にアンケートを実施し、担当教員が回答を促すなどの手当が必要なものと考えられる。

回答率が低い科目については、アンケートの数値は信頼することはできず、また経年での比較も困難である。回答率が 50%以上の科目を全般的に見ると、「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1)、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1)」、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2)」、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3)」の項目で示される授業への積極性、授業内容の理

解度、満足度などは、評価 5・4 を合わせたポジティブな回答が、ほとんどの科目で 90%を超えている。一方、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2)」の平均が 1 時間を超えるものは、8 科目のすべてが該当する。そのなかで 2 時間を超えるものは 1 件となった。

履修者の自由記述では、この「芸術・文化への招待」というカテゴリの特質であるが、文学・美術・表象・映画などの作品を取り上げながら進めた授業への評価が高い。印象に残ったコメントとして「板書やパワポも使用していないのにここまで素敵な授業を作れるのは、単純に先生のスキルが高いからだと思います」というものがあり、道具に頼らない授業の重要性をあらためて実感した。担当教員の作品に対する想いが、履修者に伝わるか否かが、この科目のポイントである。

所見票を通読したところ、他のカテゴリと比較して、担当教員が詳細に記入していることに気づかされる。授業を通じて履修者と交流することに重きを置いていることが明らかである。音楽や映画などを対象とした授業では、履修者の感想が「楽しかった」に止まらず、「学問的興味」を覚えるように、担当教員が工夫している。

４）心身への着目（FD）

「心身への着目（FD)」は 32 科目でアンケートが実施され、2021 年度の回答者数は 1,297 名であった。設問Ⅰ～Ⅲでほぼ全学共通科目総合系科目の平均を上回る結果となった。特に「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1)」と、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3)」においては、それぞれ 5 段階中で 4.50、4.49 という前年度を上回る高い評価を得ており、授業内容が適切で効果的に授業運営がなされていた結果と判断できる。

また、「この授業でよいと思った点（Ⅱ3)」において、「①配付資料（授業のレジュメなど)」と「③パワーポイント」が高い割合（それぞれ 56.4%、45.0%）となっており、こちらについては担当教員の工夫や努力が認められた結果と判断できる。「この授業から得ることができたもの（Ⅲ1)」においては、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が他の多彩な学びのカテゴリと比べても特に高い割合（65.0%）となっているのも、この科目の特性、そしてねらいを達成できたと考えられる。課題としては、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2)」が、1.04 時間とやや少ないため、授業以外に学習できるような仕組み作りが必要と考えられる。

アンケートの自由記述を見ると、教員の具体的な経験談や身近な出来事に対する丁寧な説明が好評で、配付資料や映像資料が授業の理解に役立ったとのコメントが多くあった。更に、授業最初の質問に対する返答や毎回の小テストが復習になって良かったなどのコメントが多かったため、今後も継続してこれらの手法を有効活用していけると良いと思われる。今年度は否定的または改善点などのコメントが見受けられなかったのは、教員が学生の意見に真摯に向き合い、改善への工夫を重ねていることによると判断できる。

評価に対する担当教員の所見票を見ると、概ね高い評価を受け担当教員も満足しているとの記述が多く見られた。オンライン授業にもだいぶ慣れてきており、映像資料やパワーポイント資料の工夫も有効的であったことを具体的に挙げていた。2022 年度は多くの授業が対面に戻ることから、オンライン授業からの切り替えに対して、授業改善に取り組む意欲を示す教員も多く、周到な準備を進めている様子が伺えた。

５）自然への理解（FE）

「自然への理解」では 33 科目でアンケートが実施され、1,012 名の回答があった。

「学生の学習姿勢（Ⅰ）」の項目を見ると、「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」の項目が 4.25 であり、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」は 1.12 時間であった。「多彩な学び-6」を除く他のカテゴリと比べてもそれほど変わらない値であることから、学習態度は平均的であったと考える。

「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」の項目を見ると、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」と「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」の項目は、共に総合系科目の平均値よりも高いことから、受講生から比較的高い評価を得ていると思われる。

「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」の項目を見ると、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」の項目の値が 4.42 で総合系科目の平均値より高い値を示しており、受講者の満足度は比較的高かったものと推察される。特に、「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」の項目で、「④学問的興味」の項目が全カテゴリの中でも 51.5%と高く、授業内容の充実がうかがえる。ただし、学生からコメントの中には「課題」、「質問への答え」などの問題点を指摘する意見もあったが、担当教員からの異見もあり、難しい問題である。

今年度はオンラインと対面で授業が行われたが、受講生からのコメントや担当教員の所見を見ると、オンライン授業ならではの良い点とオンライン授業では伝えられない限界点があることも見えてきた。今後は、オンライン授業と対面授業を場合に応じてどのように活用していくかが重要だと思われる。

６）知識の現場（FV）

総合系科目の平均値に比べて、各項目の評価は 2020 年度同様に非常に高い。ほとんどの授業が定員を設けた少人数科目で、学習意欲の高い学生が集まっていることを割り引いても、授業以外での学習時間（Ⅰ2）は 4.23 時間、授業満足度（Ⅲ3）は 4.58、と極めて良好な結果となっている。また「この授業から得ることができたもの（Ⅲ1）」では、「①自分にとって新しい考え方・発想」が 90.0%、「③自分で調べ考える姿勢」が 64.9%と、いずれも「多彩な学び 1～5」を大きく上回る数値となっている。

特に GLP 科目は、授業以外の学習時間が群を抜いて高いことから、学生負担の大きい科目であることが読み取れる。その一方で、そういった学生たちの努力に対して、科目担当者がしっかり応答していることが所見票から伝わってくる。学生と教員が双方向で積極的にかかわり、良好に運営されていることから、満足度も大変高いことが総合評価から読み取れる。単位数の上乗せを望む声が上がるのも、当然の成り行きかもしれない。

４．今後の改善に向けて

集計データから見られる総合系科目の評価は、2020 年度同様に 2021 年度も全般的に上昇している。これは総合系科目に携わる、すべての教職員による努力の成果であるといえる。ただし、回答率の減少が効いている可能性もあるかもしれないので、楽観しきれるわけではない。回答率向上策は全学的課題であるため全カリだけでどうにかできるものではない。

2020 年度及び 2021 年度にオンライン授業が多かったことに比して、2022 年度は（少なくとも 4 月から、これを執筆している 6 月までは）対面授業化を進めている。このことが、

教員の伝え方などにどう影響を与えるか、注視していかねばならない。合わせて、オンライン授業に慣れた学年の学生が対面授業に出席することをこなせていない可能性についても、授業評価アンケートでは捕捉しにくい情報であるが、注視していかねばならない。

2020 年度及び 2021 年度のオンライン授業は悪い事ばかりではなかった。教員も学生もデジタル教材や通信手段に習熟することができたというメリットは、原則対面授業の体制下でも活かされるであろう。ことに、多様な学部の学生を相手にする総合系科目の講義では、教育内容や教材の規格化・脱個性化を進めざるをえず、このことはデジタル化と相性が良いと考えられる。また、オンライン授業下で多様なゲストスピーカーを呼べたことへの学生の好意的な評価も見られる。

４－１３　全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目

１．科目選定方針とねらい

全学共通科目・言語系科目については、原則として全科目で実施した。ただし、連続性のある科目（例：「～語基礎 1・2」「上級英語 1・2」）を同一教員が春学期・秋学期担当する場合は、秋学期のみ実施とした。

２．集計データにみられる結果のまとめ

2021 年度の全学共通科目・言語系科目のアンケート対象科目数は 1,837（春学期 821、秋学期 1,016）、そのうち回答者 5 名以上のアンケート実施科目数は 1,338（春学期 650、秋学期 688）であった。アンケート実施科目の延べ履修者は 26,526 人で、うち回答者数は 18,106 人、回答率は 68.3%であった。前年度よりも「回答率」は微増であった。

前年度同様、全学共通科目・言語系科目の「設問項目別平均値」を見ると、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」をのぞいたすべての項目で 4 を超えており、全般的な授業への満足度の高さが伺える。一方、（Ⅰ2）の平均値は突出して低く、複数の言語教育研究室でも課題にあげている。2 時間以上の数値を出している朝鮮語・日本語の授業外学習のあり方を参考にしたい。

「この授業を通して向上した能力はなんですか（Ⅳ4）」については、英語必修科目では読む・書く・聞く・話すの 4 技能に加え、プレゼンテーションをする力・ディスカッションをする力についての伸びを履修者が実感しており、科目特性がきちんと反映されていると言えよう。初習言語については、読む・書くが聞く・話すと比較して高い傾向がある。コロナ禍ではあったが、2024 年度からの新カリキュラム始動に向け、4 技能能力のバランスの取れた向上を目指していきたい。

３．各研究室総評

＜英語教育研究室＞

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

春学期は、対面授業（英語ディスカッションや自由科目）が数週間でオンライン授業に切り替わり、秋学期は、多くの授業（英語ディベート、英語プレゼンテーションや自由科目）が数回のオンラインを経て対面にて実施された。学生からはどの授業形態においても参加しやすい工夫がなされていたことがコメントされ、特に、視覚資料の見易さ、説明の明確さ、学生に合わせた進度、丁寧な指導、オンライン授業におけるブレイクアウトルームを使ったクラスメートや教員との交流について高い評価が見られた。これらの評価に対し、教員も学生の評価・意見を好意的に捉え、今後の授業運営の参考にしたいと述べている。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生による改善を求めるコメントで顕著に見られたものは、どの科目においても、適切な課題の量である。特に、オンライン授業においては、課題の提出期間が短かったり、課題が増大したりする傾向にあるようだ。オンライン授業では接続の不具合による授業運営の不備も指摘されており、学生から対面授業を望む声も多い。これらのコメントに対し、教員は、オンライン授業では、学生の取り組みや理解度を直接確認できないという難点を認識した上で、授業の到達目標を明確化し、改善に努めていきたいと述べている。

＜ドイツ語教育研究室＞

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2021 年度は「対面」と「オンライン」の授業形態が活動制限レベルの変更にともない混在し、教員の負担も多い年であった。年度の始めより、いつでも対面とオンラインが切り替えられるように準備する必要があることを科目担当者にはご準備いただいていたため、投影資料などの教材などはフレキシブルに導入してもらうことができた。そのため、配付資料、板書、パワーポイントといった授業で使用される資料については、どの科目でもおおむね評価が高く、授業内容の明確さ、教員の伝え方の分かりやすさも連動して高評価を得ることができている様子がうかがえた。

その一方で、教室活動の制限にともない、ペア/グループ活動などを導入することが難しくなり、一人で取り組む課題を多く出しているクラスもあったようだった。それにより「読み書き」のスキルは向上したが、「聞き取り」や「発話」のスキルにおいては、例年以上にトレーニング自体が困難で、なかばあきらめざるを得ない状況だったと理解できる。

継続学習希望率についてはクラス間のばらつきもあるため、一概には言えないが、肯定的に感じている学生も多数いる様子がうかがえた。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

全体で、年間を通じて学生と教師間での大きなトラブルもなく、対面形式とオンライン形式が混在した授業運営であったにも関わらず、比較的高い評価で終えることができ、よかったと思われる。課題については、担当者ごとに異なるものの、以下の内容に意見として集約できる。

まずは授業でも用いる資料の質、用い方の更なる改善である。オンライン形式による授業運営の経験から、対面授業においても資料投影を取り入れられた担当者も増えたものの、教室の後ろからは見えにくいケースもあり教室で提示する場合には工夫が必要になる。次に、課題や授業活動に関する内容では、質と量とともに改善に余地が期待される。コロナ禍でペアやグループ活動を多くは導入できずに、個人作業が多くなってしまうのは避けられないが、あまりにも偏ると学生の集中力の低下にもつながる。たとえば、リスニングの課題を出し、それに関するディクテーションの小テストを行うほか、スピーキングに関しては録音課題に切り替えてみるなど、必ずしも従来の形式にこだわらない課題の出し方などの工夫ができるであろう。

最後に、いかに継続学習へとつなげるかの課題である。ドイツ語の言語のみならずドイツ語圏の文化、歴史、経済活動などの多様なテーマを積極的に取り上げ、学生の関心を呼び起こせるような工夫などが考えられるが、担当者連絡会などで意見交流の場を設けていきたい。

＜フランス語教育研究室＞

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2021 年度は、コロナ感染者数の増減により、対面授業からオンライン授業への切り替え、またはオンラインから対面への切り替えが度々行われたこともあり、語学教育のなかで、いかに両形態にあった授業運営を有効的に活用していくのか、試行錯誤に努めたとする記述が多かった。この点については、年に 2 回行われる担当者連絡会でも大いに議論の対象と

なり、三密を避けるために制約が多くなってしまった対面授業時に取り組めなかった発音練習・グループワークの強化として、オンライン授業回を活用しているとの意見があり、こうした教員間の意見交換をとおして両形態の切り替えを、むしろ好機として活用した担当者が多かったのは幸いである。「話す力」が向上したと感じられる履修者の割合が低かったため、通常の対面授業が戻ったら、ぜひ改善に取り組みたいとする記述も多かった。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2021 年度のフランス語集計データの平均は、「Ｉ2. 授業以外に学習した時間」を除き、すべての項目において初習言語全体の平均を上回る結果となった。「Ｉ2.」については、これまでの継続課題でもある。2020 年度末に、フランス語補助教材を作成し、授業外での学習時間を増加できるような教材作成も行ったが、昨年度オンラインから対面への授業形態移行のなかで、補助教材まで課題を出す余裕が無いクラスも多かったことも事実である。2021 年度末には、増補版として補助教材を新たに作成した。2022 年度は幸い対面授業が無事スタートしているので、増補版副教材を使って、日々の学習時間を増やすなど、履修生の総学習時間の底上げに取り組む所存である。また 2021 年度、継続学習を目的として開催した講演会「世界を知ろう!」では、ミックス開催で行ったこともあり、91 名もの参加があった。さらに自由科目説明会においても、両キャンパスで 100 名を超える参加があり、今後も履修者の関心に合致したイベントを開催できるようリサーチに努め、ニーズにあった情報を提供してゆくことで、フランス語学習への意欲を総合的に高めていきたい。

＜スペイン語教育研究室＞

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

大方の教員が、自身の授業に対する学生の満足度の高さを確認することができ、達成感を得るとともに安堵したようである。配付資料や映像視覚教材の使用など個々の教員の工夫が評価されたことと併せて、スペイン語の基礎的な力が養われたと学生が実感していることが示されたため、スペイン語学習の入門・初級部分を担う必修科目としての役割を果たすことができたと考えているようだ。さらに、スペイン語学習の意欲増加や継続学習の意思が一部学生に見られたこと、全般的に学生のスペイン語圏地域への興味関心が高まったことを喜ぶ声は多かった。

コロナ禍で学期中に授業形態の変更があったにも関わらず、学生がしっかりと授業に取り組んだことを賞するコメントも複数見られた。一方で、学生からの指摘（板書の見にくさ、ペアの連携不足など）を受け、遺憾を記したコメントも数件見られた。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

評価の高い授業運営方法は継続しつつ、より良い授業を目指していくというのが共通の見解である。単語テストを行う、副教材を活用する、コミュニケーション活動の時間を多く取るといった、学生の声に具体的に応える形での今後の方針が示されるケースもあれば、進度の速さや板書時間不足などすべての学生を満足させるのが難しい事柄については、課題として挙げられるにとどまった。

その他、授業外学習時間の活用、教員は変わりうる環境に適宜合わせられる柔軟性を持つ

こと、学生が能動的な授業参加ができる機会を設けること、継続学習者のさらなる増加を目指すことなどへの言及が見られた。

＜中国語教育研究室＞

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

今年度は感染対策として、教室内での移動、資料の配付、ルカミィの着用など通常とは異なる制約が多かった。これらに対し、科目担当者の声が聴きとりづらい、スライドが見えにくい、ルカミィに対する効果への疑義などの意見が散見された。またクラスによって小テストの頻度など対応が異なるため、負担に感じるクラスも確認できた。その一方、基礎科目では教科書各課の「文化広場」を通じて、中国の様々な文化に触れられた点を評価する意見も多数寄せられた。またアンケートの回答率が低いクラスもあり、授業内での実施が徹底していないことも確認できた。自由科目では中国語以外に、中国に関する様々な情報が得られたことへの言及が多かった。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

担当者の授業進行の速度が速い、声が聞き取りづらいなどは早急に対応していきたい。また感染対策としてお願いしてきた、スライドを活用した授業なども高評価を得ているので、引き続き積極的に活用していきたい。

＜朝鮮語教育研究室＞

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2021 年度の朝鮮語教育は必修科目において 2 つの大きな変化があった。1 つ目は、履修者の急増により、多くの履修グループで開講クラスが増えたこと、2 つ目は、教科書を刷新し全履修グループで同じ教科書を使用するようにしたことである。よって、担当教員は例年以上に準備と授業時のタイムマネジメントに気をつかうこととなった。その上、いずれの学期も途中で授業形態が変更され、対面授業時でも感染対策として授業内活動に制限が加えられるなど、イレギュラー対応が常となる年度であった。以上のことが重なり、所見では試行錯誤の 1 年であったとの言及が多く見られた。

新教科書では学習内容が増えており、それが学生の負担感を増すのではないかということが多くの教員の不安であったが、アンケートを見る限り杞憂に過ぎなかったようだ。また、履修者の増加によっても、朝鮮語の場合は高いモチベーションをもった学習者の割合はさほど変わらず高水準で安定していたようで、そのことも負担感を訴える学生の少なさとして現れたようである。期末テストで例年より高得点であったというクラスもあり、それなりの難易度となったことが逆に学習モチベーションを高めた可能性も指摘できる。文化コンテンツの活用は相変わらず好評であり、継続学習の希望者も多く、担当教員にとっては努力が報われた 1 年であったのではないだろうか。

中級および上級科目は例年通りモチベーションの高い学生が自ら選択して履修するものであるので、多くの授業で学生の満足度も教員の達成感も高かったようである。検定試験へのチャレンジや、学問的な興味を教員に示す学生もいたようで、双方とも満足のいく授業が各授業で展開されたと思われる。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

必修科目の担当者で多かったコメントが「聞き取り」「会話」能力を高める練習時間が十分にとれなかったという点である。これは新教科書の学習内容が増え、解説に割く時間が多くなったことが主因である。解説とアウトプット練習の両方が可能な例題の作成を検討するとともに、広く担当教員からアイデアを募って対応策を考えていきたい。

中級および上級においては 2 点指摘しておく。1 点目は、教授言語を朝鮮語とする割合である。レベルが上がれば当然、朝鮮語で教授する場面は増える。しかし、そのことを不安に思う学生がいるという点もあり、カリキュラム全体で（必修科目の段階から）レベルの上昇とともに朝鮮語を使用した教授シーンが増えていくことを経験させておくのがよいであろう。

2 点目は、履修学生間の学習歴や習熟度の差である。専門課程でなく開講クラスに限りがある以上、担当教員には学生間の差異があることを前提とした上での授業準備をお願いせざるを得ない。しかし、2022 年度からは「朝鮮語スタンダード」のマイナーチェンジを行いレベルの細分化を実施することで課題の解消を試みている。新カリキュラムにおいても、学習者が適切なレベルの授業を選択できる学習環境を整備することで、この課題を少しずつ改善していくことにしたい。

＜諸言語教育研究室＞

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

アンケートが実施されたすべてのクラスで、学生自らが授業に能動的に参加したことを伺いとることができ、授業に対する満足度が高く、教員の授業に対する取り組みも高評価であった。紙媒体での配付資料とパワーポイントの併用が習熟の助けになったと考えられる。また、基本的な専門知識に加え、新しい発想や思考力が養われ、学問的興味を得られたと回答した学生も多い。これは新しい言語の文化的背景を学ぶコラムの時間が功を奏したようだ。授業を通して向上した能力として「話す力」があげられるクラスが多かったのは、インタラクティブな授業の成果であろう。日本手話の総まとめにあたる「日本手話 4」のクラスを含むすべてのクラスで、アンケートに回答した学生全員が継続学習を望んでおり、教員のおおいなる励みとなる。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

「授業以外に学習した時間」が平均 1 時間程度の授業については、評価の中に「積極性」として、授業外の学習時間を組み込んだが、その時間を定量化することを検討していきたい。資料配付は引き続き紙媒体も併用しつつ ICT を活用し改良し、復習に繋がりやすい方法を模索していきたい。「プレゼンテーション力」伸長を目指して、2022 年度から日本手話 4 のシラバスに「プレゼンテーション」を組み込んだ。「話す力」に加え「プレゼンテーションする力」も併せ、それぞれの能力が向上していくよう授業をさらに改善する努力をしていきたい。引き続き手話をきっかけに幅広い視野を持った学生を育てたい。

＜日本語教育研究センター＞

３－１「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員が、学生のアンケート結果から、学生が非常に授業に対して満足してくれたと

受け取っている。また、「書く」「読む」技能に重点を置いた科目でありながら、学生が「話す」「聞く」力も伸びたと感じていることに触れ、ピアの活動やディスカッションなど、授業活動による効果についても言及している。一方で、学生が「科目で扱う専門的知識を得た」と感じている割合が少ないことに対して、科目の目標であるアカデミック・ライティングや論文読解のスキルなどを効果的に伝えられなかったのではないかと感じていることもうかがえた。

学生の出席率、参加度についても、肯定的な所見を書いている教員が多く、大多数の学生が積極的に授業に取り組んでいたことが読み取れた。しかしながら、クラスの中にモチベーションが低い学生が数名いたことに触れ、そのような学生への対応を課題として記している教員も複数名見られた。学生のモチベーションの低さについては、もともと日本語を学ぶということに対するモチベーションが低い場合だけでなく、授業のレベル（あるいは授業で扱う教材や教室課題のレベル）が当該学生にとってやさしすぎたためという場合が見受けられ、1つのクラスにかなりレベルの異なる学生が含まれていることがうかがえた。

３－２「改善に向けた今後の方針」のまとめ

改善に向けた方針としては、2つのコメントに集約されている。1つ目は、新型コロナウイルスによりミックス型対応となったことによるものである。オンラインで受講する学生と教室で受講する学生がいる場合、どちらかに有利になったりしないように配慮する必要性、板書をどのように効果的に示していくかなど、様々な機器の操作や受講形態の異なる学生に対する対応に関するものが多かった。

2つ目は、受講生のモチベーション、レベルなどへの対応に関するものである。レベルやモチベーションが異なる学生が 1 つの教室にいる場合、どの学生も積極的に授業に参加できるようにするために、教材のバリエーションが必要であること、教室活動も多様化させていくことなどについての言及が見られた。

ミックス型対応、学生の多様性への対応などから、個々の教員が今後の改善点を示しているが、そのすべてが、授業をよりよくしていこうとする前向きなものであり、今後の授業改善に結び付いていく内容であると思われた。

４．今後の改善に向けて

言語教育において、履修者のレベルに適合した、綿密なカリキュラムに基づく授業運営がなされていれば、その授業が目指す言語能力の向上は、ある程度保証されると言っても過言ではない。教室内やオンラインという制限のある環境であったとしても、4技能のバランスの良い伸長は無理難題ではない。カリキュラムの改編に伴い、ひとつひとつの授業を改良していく中で、何をどれだけ、どのように教えるのか、この点をいま一度各研究室で見直す必要があろう。そして兼任講師を含む教員全員で、それを共有し、同じ方向を目指して進まなくてはならない。もちろん研究室によって改編に向けた準備の差はあるが、アンケート結果はこれまでの授業のやり方や内容の反映である。

一方で、学習意欲の大きさは学習者によって異なり、その差が大きければ大きいほど授業運営は困難になる。そのためどのような授業においても、安定的に高い学習意欲を履修者に持ち続けさせる工夫が不可欠である。が、実は学習者にモチベーションを与えること、これ

がもっとも究極的かつ根本的な言語必修科目が担うべき役割なのである。この役割を必修科目が果たすことができれば、学習者はおのずと良質で適切なカリキュラムに沿って学習を継続していく。新カリキュラムの始動を待たずしても、そのような流れを作り出せる授業を１日でも早く、１つでも多く全学共通科目・言語系科目から提供していきたい。

４－１４　学校･社会教育講座

１．科目選定方針とねらい

毎年度、学校・社会教育講座（以下講座）の授業評価アンケートは、教職課程に関しては原則として講義科目を対象とした 1 教員 1 科目、学芸員課程などの他課程に関しては各課程で重点を置いている科目を選定し、数年にわたって広い科目を網羅できるように配慮がなされている。履修者の意見を把握すべく、各課程での工夫が反映されているといえよう。また、履修者が 5 名以下の科目については、個人の特定予防などの観点からアンケートの実施見送りを原則としている。しかし、最終的には各課程や授業担当教員の判断を尊重し、適宜実施している。これらの目的は、毎年度、継続的な履修者からの授業評価の蓄積により、個々の教員の授業の特質を見直し、履修者からの見解の動向把握を可能にし、今後のより質の高い履修者の「学び」に対するリクエストにマッチした授業の提供につなげることである。

昨年度は新型肺炎の影響により、授業評価アンケートは秋学期にのみ教職課程、学芸員課程、社会教育主事課程の 25 科目での実施となったが、今年度は社会的情勢の変化に伴い、春学期および秋学期を通じて、学校・社会教育講座では、53 科目において、授業評価アンケートを実施することとなった。

２．集計データにみられる結果のまとめ

改めて前述の理由により、今回における講座の調査対象科目は、春学期 33 科目、秋学期 20 科目の合計 53 科目となった。当該科目の履修者数は 2,405 名、そのうち回答者数は 1,039 名、回答率は 43.2%であった。前回は 54.5%であり、回答率は下がったものの、今回の調査対象となった学部全体の回答率は 37.9%であったことから、講座に関しては例年同様、やや高めの回答率となった。なお、回答者の学年は、1 年生が 379 名、2 年生が 405 名、3 年生が 216 名、4 年生が 18 名、その他が 21 名となっており、これまでと同様に、下の学年ほど回答者が多いという講座の科目の特徴を示すものとなった。この点に関しては、1、2 年次には講義を中心とした科目を、3、4 年次には実習や演習系の科目をという、学生の履修方法があげられるが、今回に関しては、3 年生の回答者も少なくない結果が得られた。その背景としては、前回はコロナ禍により調査対象科目が少なかったこと、また、3 年生も講義系の科目を積極的に履修しているという可能性などが読み取れる。

Ⅰ「学生の学習姿勢」では、「この授業に積極的に参加した」が 4.33 であり、前回の 4.25 を上回る結果となった。例年と同じく、履修者が免許状や資格取得に向け、モチベーションを上昇、維持させつつ、各々の目標に対して学びを進めている様子が見受けられる。一方、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間」に関しては、1.22 時間となっていた。前回の 1.30 時間をやや下回ったものの、前々回の 0.89 時間からは増加の傾向が確認されている。このことから、年度による微細な増減はありながらも、履修者は講座の授業で学んだ内容について、自主的な学習をさらに広げ、深めている可能性をうかがえる結果になったといえよう。今後も履修者の過度な負担にならぬよう、担当教員は、適切な質と量の課題を設定し、より各自が希望する免許状や資格の取得に対する知識の深化や興味関心の広がりを目指すことを心掛けたい。

Ⅱ「教員の授業改善に向けて」では、「各回の授業内容は明確だった」が 4.41、「教員の伝え方はわかりやすかった」が 4.34 という、いずれも履修者からの高い評価を得ることがで

きていた。担当教員が、各回の授業でねらいや目標を明確に示しつつ、様々なツールを適宜効果的に活用し、授業を進めていることが推察される。具体的に効果的であったと評価されているものは、「配付資料（授業のレジュメなど）が 68.3%、「パワーポイント」が 41.5%と、いずれも代表的な授業ツールがあげられていた。この 2 つのツールに関しては、前回よりも共に 0.8%ほど上昇しており、講座に所属する教員が安定した水準を保ちつつ、授業を進めていることが読み取れる。同時に、Ⅱ5 の「この授業で改善すべきだと思った点はありますか」という項目については、「上記にあてはまるものがない」と 63.3%の履修者が回答していた。改めて、各教員が配付資料や授業内でパワーポイントを効果的に活用している様子がうかがえた。また、自由記述としては、具体的な意見としては、「配付資料が整理されていて分かりやすかった」、「PDF ファイルで入手しやすかった」、「スライドがまとめられていた」、「飽きを感じさせないスライドだった」などが挙げられていた。特に、「教員の熱意が感じられた」というコメントは少なくなく、各担当教員の授業に対する思いが伝わってくる結果となった。引き続き、各教員が力量をブラッシュアップすることを期待したい。

Ⅲ1「この授業から得ることができたものはありますか」では、「自分にとって新しい考え方・発想」が 56.4%、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 72.2%で高い水準を示していた。特に後者に関しては、前回の 67.8%を約 4%上回る結果となった。このことから、今回に関しては、特に各教員が各々の専門分野で前回以上に濃度の高い授業を提供していた様子がうかがえる。逆に、「自分で調べ考える姿勢」は 21.0%、「学問的興味」は 34.4%であり、決して低い数値とは言えないが、今後、さらなる検討の可能性を見出すことができた。しかし、自由記述に関しては、「ディスカッションにより視野を広げることができた」、「実践的なスキルを学ぶことができた」などの履修者の意見も散見された。いかに履修者の興味関心をより自ら学ぶ姿勢につなげていくことが今後の課題と言えよう。

また、「授業規模別平均値」に関しては、今回講座内で対象となった科目は 50 名以下のものが 51 科目、51～100 名のものが 2 科目であった。いずれの規模においても、Ⅰ1「この授業に積極的に参加した」、Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」、Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」、Ⅲ3「この授業を受けて満足した」の項目は、4.17～4.42 の高い評価を履修者から受けていた。前回も 4.25～4.38 の範囲内であったことから、引き続き高い水準が保たれていたことが推測される。

「学年別平均値」に関しては、Ⅰ2「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」の項目で、1 年生の 1.31 から、学年が上がるにつれ低くなる結果が示された。この点に関しては、各学科専修の専門科目が増えたり、授業以外での活動に時間を費やしたりしている履修生の様子をうかがうことができる。実習なども多く組み込まれる高い学年の履修生にも、過度な負担になることのないように、適切な課題を設定したり、質疑に応じたりすることで、その機会提供を考える余地はあると判断できる。

３．担当教員の所見に対するまとめ

３－１　「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

オンライン形式と対面形式がミックスされた今回のアンケート結果であるが、オンライン形式の部分に関しては、多くの教員が、履修者が集中力を維持継続できるよう、授業資料を工夫したり、ディスカッションを取り入れたりなどの工夫を凝らしていた様子がうかが

えた。特に、履修者からのコメントや質問に対し、丁寧に応答するように尽力していた、という所見を多く見ることができた。一方、授業資料の工夫ともリンクするが、資料の量を見直していこうという教員の見解も散見された。履修者にとって、最適な質と量とを、今後も文脈に応じて検討していく必要があろう。多くの教員が、履修者からは、「教員の伝え方はわかりやすかった」、「この授業を受けて満足した」の項目において、高い評価を得ていたことを、ポジティブに捉え、各担当授業を今後もより良いものにしようとする教員自身の授業へのモチベーションにつなげているものと考えられる。

１）所見票に現れた学生の意見（記述による評価）の集約

履修者の授業に対するポジティブな意見としては、やはりオンライン形式であっても、対面式であっても、他の履修者や担当教員とのコミュニケーションに関するものが多く見られた。例えば、「グループディスカッションを積極的に取り入れられており、学びが深まった」、「担当教員からの履修者への声がけが適宜行われていた」、「ディスカッション開始前に、チームビルディングなどがあり、参加しやすかった」などの具体的な記載が確認されていた。また、履修者からの質問に対しても、多くの教員が即時あるいは適宜応じられていた様子も見受けられた。一方、今後改善を期待する意見としては、オンライン形式の場合、「通信環境が不安定であった」、「（教員が）操作に手間取っている様子であった」などが見られた。通信環境の安定は最重視されるべき要素ではあるが、履修者および担当教員の環境も多岐にわたること、また、どんなに環境を整えるべく尽力しても万全ではないことなどから、今後は通信環境を整える努力の継続は言うまでもないが、通信環境が不安定な場合の対応などについても、目を向けるべき必要があるといえよう。

２）上記１）に対する担当教員の所見のまとめ

特にオンライン授業に対する、今後の改善点の記載が充実しており、どの教員も自身の担当授業を、履修者の声を生かしつつ、さらに良いものにしていこうとする背景がうかがえた。具体的には、上記でも述べた通信環境の安定性に加え、教員の機器活用能力の向上、オンデマンド時の動画配信のテンポ、資料の質や量、目的に沿った資料の形式（例：書き込み式、PDF 式など）、課題設定のテンポ（提出期間や方法など）についての記載が見られた。

３－２　「改善に向けた今後の方針」のまとめ

繰り返しになるが、いずれの教員も、履修者の声に真摯に耳を傾け、その声を前向きに活かしていこうとする様子が伝えられていた。この点に関しては、担当教員が日ごろの授業において、履修者一人ひとりを尊重し、理解しようとしていた姿がうかがえた。

４．今後の改善に向けて

前回、および前々回に続き、今回も講座においてアンケート対象となった科目については、履修者からは一定の水準以上の高い評価が得られることとなった。このことから、概ね講座で提供している授業に関しては、履修者の期待や求める内容に、十分応えられているという現状をうかがい知ることができた。

今回のアンケートに関しては、社会的情勢の変化により、対面式からオンライン形式への変更を余儀なくされた科目も多く含まれている。そのため、前述でも報告したとおり、通信環境の問題ついて、履修生からの意見が多く寄せられていた。この点に関しては、テクニカ

ルな面も含めると、教員サイドからも様々な見解が寄せられていた。何よりも履修生や教員の「安全」が第一となるが、今後の社会的情勢を踏まえつつ、その都度、できること、最善のことを適宜かつその都度検討していく必要があると考えられる。

しかし、今回のアンケート結果からは、履修生と教員との双方で、有意義な授業を作り上げていこうとする雰囲気が随所から伝わってきたと感じている。今後も履修者の目的やニーズを的確に把握し、高いモチベーションを維持できるような授業を提供していくとともに、履修者が新たな発見や着想を抱けるよう、各教員が常に自身の授業をブラッシュアップさせていく心構えを引き続き期待していきたい。

５．2021 年度のまとめと今後の展望

大学教育開発・支援センター
TL（Teaching&Learning）部会長　佐々木　直樹

１．はじめに

本学における「学生による授業評価アンケート」は、大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部や情報企画室（メディアセンター）の協力を得て実施している。アンケートに回答してくださった学生のみなさんや、所見の執筆にあたった教員各位を始めとして、本件に関わる全てのみなさまにまずは感謝を申し上げたい。

アンケート結果と各学部等総評を踏まえ、多くの学部等に共通すると思われる事項、および今後の授業改善において重要になると思われる事項について、以下にまとめてみたい。

２．回答率の低下

2021 年度の回答率は 37.9%であった。これは、Web での実施初年度であった 2020 年度の回答率（45.8%）よりもさらに低い。紙媒体での実施であった直近 5 年度（2015～19 年度）の回答率が 60%台前半であったことを踏まえると、わずか 2 年で、回答者と非回答者の比が逆転するほどに低下したことがわかる。この背景に「授業のオンライン化や、アンケートの実施方法が Web 化されたことによる影響」（文）があることは、想像に難くない。さらには、回答率の低下に伴い、アンケートの結果にバイアスがかかっている可能性も指摘されている（理、社会、コミュニティ福祉、全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目など）。

このような回答率の低下傾向は本学だけではない。当センターが FD 関連で接点を有している他の首都圏私大においても、同様の傾向があるとのことである。回答率を向上させるための方策を、当センターとして今後検討していきたい。

３．オンラインの活用

2021 年度は、本学の「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための活動制限指針」の制限レベルが度々変更され、授業実施にも少なからず影響を与えた。下記に制限レベルの推移を示す。年間を通じてオンラインを活用せざるをえない状況で、特に春学期は、ミックス型（同時配信併用型の対面授業）による実施が推奨される「レベル 2」の期間、並びに原則としてオンラインのみで実施の「レベル 3」の期間が多かったことがわかる。

レベル 1（4 月 1 日）→レベル 3（4 月 29 日～）→レベル 2（6 月 23 日～）→レベル 3（7 月 14 日～）→レベル 2（10 月 4 日～）→レベル 1（10 月 18 日～）→レベル 2（1 月 25 日～）→レベル 1（3 月 22 日～）

各学部等総評でもオンラインを活用した授業に関する記述が多く見受けられ「前年度に多く見られたオンライン授業に関する技術的な問題点の指摘は減少した」（文）、「オンラインを活用した授業形態も 2 年目となり、教員、学生双方も慣れてきた」（社会）といった指

摘がなされている。一方で、「教室における板書の内容がオンライン受講者には不明瞭であったり、グループワーク時における対面受講者とオンライン受講者との意思疎通の困難」（経済）、「対面で参加している学生とオンライン参加している学生との理解度の格差解消」（理）、「オンサイトの学生と、オンラインの学生の間で、課題の取り組みや授業へのコミットメントの平等性・公平性の問題」（社会）など、ミックス型授業に関していくつかの課題が指摘されている。2022 年度は原則対面で授業が実施されているものの、「授業や履修者の抱える条件によって、依然オンライン形式、場合によってはハイブリッド形式を維持せざるを得ない」（社会）との声もある。「配慮が必要な学生へのミックス形態の授業運営」（経営）は今後も続いていくであろう。

上述のオンラインを活用した授業は、ある意味で必要に迫られて取り組んだものであった。一方で、オンラインの積極的な活用も既に実践されてきており、反転学習（理）、多彩なゲストスピーカーの招聘（観光、全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目）、遠隔地のゲストスピーカーの招聘（GLAP）などが挙げられている。「教員も学生もデジタル教材や通信手段に習熟することができたというメリットは、原則対面授業の体制下でも活かされるであろう」（全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目）という指摘が、全学的に当てはまるようになることを期待したい。

４．おわりに

2022 年度は、3 年に一度の「1 教員 1 科目」の原則によって本アンケートを実施する年度にあたる。コロナ禍によって摂動を受けた大学の授業が、学生にとってどのような存在となっているかを全学的に問い、各教員の授業力、並びに各学部・学科の教育力増進につなげる機会となることを願ってやまない。

６．2021 年度集計データ（資料編）

６－１　回答者数・回答率

延べ回答者数　51,600 名

表１　学部等別履修者数と回答者数、および回答率

科目開設学部等	履修者数	回答者数	回答率
文学部	8,459	2,688	31.8%
経済学部	3,891	2,034	52.3%
理学部	6,298	2,129	33.8%
社会学部	13,034	3,732	28.6%
法学部	2,202	570	25.9%
経営学部	13,106	3,117	23.8%
異文化コミュニケーション学部	1,345	824	61.3%
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ	372	247	66.4%
観光学部	11,255	2,711	24.1%
コミュニティ福祉学部	3,829	1,764	46.1%
現代心理学部	2,606	756	29.0%
全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営センター・総合系科目	40,972	11,883	29.0%
全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営センター・言語系科目	26,526	18,106	68.3%
学校・社会教育講座	2,405	1,039	43.2%
合　計	136,300	51,600	37.9%

注 1）履修者数・回答者数は、アンケート実施科目の延べ履修者、回答者
注 2）学部等は、アンケート実施科目の開設学部により分類した

表２　学部等別学年別の回答者数

科目開設学部等	1 年	2 年	3 年	4 年	その他	合計
文学部	1,449	638	457	140	4	2,688
経済学部	1,991	32	5	6	0	2,034
理学部	912	761	404	50	2	2,129
社会学部	1,832	1,126	587	185	2	3,732
法学部	248	101	186	35	0	570
経営学部	674	1,029	1,096	302	16	3,117
異文化コミュニケーション学部	582	151	70	21	0	824
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾘﾍﾞﾗﾙｱｰﾂ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ運営ｾﾝﾀｰ	58	104	50	35	0	247
観光学部	422	1,018	1,031	236	4	2,711
コミュニティ福祉学部	945	455	287	76	1	1,764
現代心理学部	204	334	175	43	0	756
全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営センター・総合系科目	5,565	3,326	2,051	836	105	11,883
全学共通ｶﾘｷｭﾗﾑ運営センター・言語系科目	16,512	951	428	215	0	18,106
学校・社会教育講座	379	405	216	18	21	1,039
合　計	31,773	10,431	7,043	2,198	155	51,600

注 1）回答者数は延べ人数
注 2）学年は、当該学部等で実施したアンケートに回答した学生の学年を示す（その他：本学学部生以外）
注 3）学部等により実施科目の選定方針が異なるため、学年の偏りがある

６－２　学部等別設問項目別平均値・回答割合

表３－１　文学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	2,672	4.25	0.75
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,873	1.44	1.99
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	2,682	4.32	0.78
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	2,685	4.22	0.86
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	2,683	4.27	0.82

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表３－２　文学部（回答割合）

全有効回答者数　2,688

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	2,669*1	99.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,699	63.2%
②板書（電子媒体のものを含む）	370	13.8%
③パワーポイント	672	25.0%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	600	22.3%
⑤シラバス	179	6.7%
⑥上記にあてはまるものがない	250	9.3%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	550*2	20.5%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	2,325*1	86.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	257	9.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	154	5.7%
③パワーポイント	124	4.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	110	4.1%
⑤シラバス	108	4.0%
⑥上記にあてはまるものがない	1,730	64.4%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	355*2	13.2%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	2,679*1	99.7%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,458	54.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,676	62.4%
③自分で調べ考える姿勢	750	27.9%
④学問的興味	1,259	46.8%
⑤上記にあてはまるものがない	65	2.4%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	168*2	6.3%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に１つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表４－１　経済学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	2,019	4.26	0.83
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,181	1.50	2.22
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	2,027	4.22	0.88
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	2,027	4.06	1.02
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	2,026	4.10	0.92
Ⅳ　学部等による設問			
Ⅳ1（基礎ゼミナール１）経済文献を読む力がついた	498	3.97	0.84
Ⅳ2（基礎ゼミナール１）レジュメやレポート作成の力がついた	498	4.32	0.67
Ⅳ3（情報処理入門１）表計算ソフト（Excel）の応用力が身についた	435	4.30	0.72
Ⅳ4（情報処理入門１）Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた	432	4.05	0.89
Ⅳ5（情報処理入門１）WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた	434	4.26	0.80

注 1）回答者数は延べ人数
注 2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
（5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない）
*I2 の単位は「時間」

表４－２　経済学部（回答割合）

全有効回答者数　2,034

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	2,008*1	98.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,153	56.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	316	15.5%
③パワーポイント	579	28.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	178	8.8%
⑤シラバス	126	6.2%
⑥上記にあてはまるものがない	304	14.9%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	396*2	19.5%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	1,810*1	89.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	255	12.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	232	11.4%
③パワーポイント	111	5.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	86	4.2%
⑤シラバス	36	1.8%
⑥上記にあてはまるものがない	1,255	61.7%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	318*2	15.6%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	2,021*1	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	621	30.5%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,309	64.4%
③自分で調べ考える姿勢	586	28.8%
④学問的興味	500	24.6%
⑤上記にあてはまるものがない	99	4.9%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	125*2	6.1%

注 1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に１つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注 2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表５－１　理学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	2,117	4.21	0.82
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,545	1.67	1.50
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	2,123	4.24	0.78
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	2,123	4.03	0.93
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	2,115	4.09	0.85
Ⅳ　学部等による設問			
Ⅳ1　シラバスに沿って授業が行われた	2,118	4.35	0.63
Ⅳ2　教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた	2,120	4.28	0.77
Ⅳ3　(必修科目のみ) 授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった	1,481	3.70	1.29
Ⅳ4　(1年次必修科目のみ) 教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた	872	3.75	0.97

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表５－２　理学部（回答割合）

全有効回答者数　2,129

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	2,108*1	99.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,348	63.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	624	29.3%
③パワーポイント	547	25.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	226	10.6%
⑤シラバス	105	4.9%
⑥上記にあてはまるものがない	145	6.8%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	316*2	14.8%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	1,883*1	88.4%
①配付資料（授業のレジュメなど）	275	12.9%
②板書（電子媒体のものを含む）	283	13.3%
③パワーポイント	132	6.2%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	87	4.1%
⑤シラバス	63	3.0%
⑥上記にあてはまるものがない	1,218	57.2%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	331*2	15.5%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	2,112*1	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	739	34.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,603	75.3%
③自分で調べ考える姿勢	540	25.4%
④学問的興味	729	34.2%
⑤上記にあてはまるものがない	59	2.8%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	72*2	3.4%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表６－１　社会学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数[注1)]	平均値[注2)]	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	3,708	4.13	0.79
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	2,565	1.24	1.94
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	3,727	4.29	0.74
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	3,714	4.16	0.87
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	3,725	4.22	0.84

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表６－２　社会学部（回答割合）

全有効回答者数　3,732

設　問　項　目	回答者数[注1)]	割合[注2)]
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	3,700[*1]	99.1%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,932	51.8%
②板書（電子媒体のものを含む）	345	9.2%
③パワーポイント	1,761	47.2%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	1,170	31.4%
⑤シラバス	181	4.8%
⑥上記にあてはまるものがない	249	6.7%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	735[*2]	19.7%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	3,286[*1]	88.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	531	14.2%
②板書（電子媒体のものを含む）	181	4.8%
③パワーポイント	275	7.4%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	209	5.6%
⑤シラバス	85	2.3%
⑥上記にあてはまるものがない	2,236	59.9%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	589[*2]	15.8%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	3,716[*1]	99.6%
①自分にとって新しい考え方・発想	2,178	58.4%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,337	62.6%
③自分で調べ考える姿勢	744	19.9%
④学問的興味	1,574	42.2%
⑤上記にあてはまるものがない	87	2.3%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	231[*2]	6.2%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に１つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表７－１　法学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	563	4.25	0.75
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	377	1.27	1.96
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	568	4.52	0.63
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	568	4.51	0.73
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	566	4.39	0.73
Ⅳ　学部等による設問			
Ⅳ1　このオンライン授業は受けやすかった	565	4.21	0.94
Ⅳ2　このオンライン授業で出された課題の量は適切だった	560	4.14	0.96

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表７－２　法学部（回答割合）

全有効回答者数　570

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	557*1	97.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	142	24.9%
②板書（電子媒体のものを含む）	228	40.0%
③パワーポイント	154	27.0%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	28	4.9%
⑤シラバス	33	5.8%
⑥上記にあてはまるものがない	116	20.4%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	150*2	26.3%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	512*1	89.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	80	14.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	58	10.2%
③パワーポイント	38	6.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	21	3.7%
⑤シラバス	12	2.1%
⑥上記にあてはまるものがない	337	59.1%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	91*2	16.0%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	567*1	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	296	51.9%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	348	61.1%
③自分で調べ考える姿勢	105	18.4%
④学問的興味	259	45.4%
⑤上記にあてはまるものがない	9	1.6%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	26*2	4.6%
Ⅳ　学部等による設問		
Ⅳ3　このオンライン授業について改善すべき点があれば記入してください。（自由記述）	40*2	7.0%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表８－１　経営学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数[注1)]	平均値[注2)]	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	3,084	4.32	0.74
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	2,121	1.26	1.43
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	3,112	4.30	0.84
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	3,099	4.15	1.00
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	3,111	4.25	0.90

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表８－２　経営学部（回答割合）

全有効回答者数　3,117

設　問　項　目	回答者数[注1)]	割合[注2)]
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	3,086*1	99.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,702	54.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	352	11.3%
③パワーポイント	1,380	44.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	443	14.2%
⑤シラバス	234	7.5%
⑥上記にあてはまるものがない	338	10.8%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	471*2	15.1%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	2,907*1	93.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	565	18.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	298	9.6%
③パワーポイント	353	11.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	226	7.3%
⑤シラバス	102	3.3%
⑥上記にあてはまるものがない	1,773	56.9%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	425*2	13.6%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	3,104*1	99.6%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,476	47.4%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,095	67.2%
③自分で調べ考える姿勢	647	20.8%
④学問的興味	1,052	33.8%
⑤上記にあてはまるものがない	75	2.4%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	101*2	3.2%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表９－１　異文化コミュニケーション学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	821	4.45	0.67
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	493	1.90	2.26
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	824	4.49	0.68
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	823	4.41	0.73
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	824	4.43	0.75
Ⅳ　学部等による設問			
Ⅳ1　(多文化共生特論、国際協力・開発学特論、国際協力・紛争研究特論、自然共生特論) この授業の受講者数は適切だった	61	4.33	0.72
Ⅳ2　(多文化共生特論、国際協力・開発学特論、国際協力・紛争研究特論、自然共生特論) レジュメやレポート作成の力がついた	61	3.52	1.03
Ⅳ3　(Seminar in English) 異文化コミュニケーション学部の専門領域（専門的な学び）に対する興味・関心が増した	64	4.03	0.94

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表９－２　異文化コミュニケーション学部（回答割合）

全有効回答者数　824

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	812*1	98.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	384	46.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	116	14.1%
③パワーポイント	337	40.9%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	163	19.8%
⑤シラバス	121	14.7%
⑥上記にあてはまるものがない	138	16.7%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	233*2	28.3%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	720*1	87.4%
①配付資料（授業のレジュメなど）	70	8.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	34	4.1%
③パワーポイント	34	4.1%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	25	3.0%
⑤シラバス	20	2.4%
⑥上記にあてはまるものがない	576	69.9%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	129*2	15.7%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	817*1	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	462	56.1%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	416	50.5%
③自分で調べ考える姿勢	339	41.1%
④学問的興味	319	38.7%
⑤上記にあてはまるものがない	26	3.2%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	103*2	12.5%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表１０－１　グローバル・リベラルアーツ・プログラム（平均値）

設　問　項　目	回答者数[注1)]	平均値[注2)]	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	243	4.20	0.73
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）*	190	2.41	1.88
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	247	4.34	0.70
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	246	4.24	0.83
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	247	4.35	0.78

注 1）回答者数は延べ人数
注 2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2 の単位は「時間」

表１０－２　グローバル・リベラルアーツ・プログラム（回答割合）

全有効回答者数　247

設　問　項　目	回答者数[注1)]	割合[注2)]
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	246[*1]	99.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	110	44.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	39	15.8%
③パワーポイント	170	68.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	113	45.7%
⑤シラバス	53	21.5%
⑥上記にあてはまるものがない	15	6.1%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	89[*2]	36.0%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	226[*1]	91.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	28	11.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	21	8.5%
③パワーポイント	29	11.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	12	4.9%
⑤シラバス	8	3.2%
⑥上記にあてはまるものがない	151	61.1%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	67[*2]	27.1%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	246[*1]	99.6%
①自分にとって新しい考え方・発想	162	65.6%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	152	61.5%
③自分で調べ考える姿勢	106	42.9%
④学問的興味	126	51.0%
⑤上記にあてはまるものがない	8	3.2%
Ⅲ2　Ⅲ1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	38[*2]	15.4%

注 1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に 1 つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注 2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表１１－１　観光学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	2,693	4.31	0.70
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,884	1.31	2.35
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	2,709	4.42	0.71
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	2,704	4.32	0.81
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	2,705	4.35	0.78

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表１１－２　観光学部（回答割合）

全有効回答者数　2,711

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	2,679*1	98.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,595	58.8%
②板書（電子媒体のものを含む）	246	9.1%
③パワーポイント	1,127	41.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	708	26.1%
⑤シラバス	144	5.3%
⑥上記にあてはまるものがない	210	7.7%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	575*2	21.2%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	2,315*1	85.4%
①配付資料（授業のレジュメなど）	344	12.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	92	3.4%
③パワーポイント	121	4.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	149	5.5%
⑤シラバス	63	2.3%
⑥上記にあてはまるものがない	1,658	61.2%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	419*2	15.5%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	2,697*1	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	1,567	57.8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,639	60.5%
③自分で調べ考える姿勢	558	20.6%
④学問的興味	1,050	38.7%
⑤上記にあてはまるものがない	29	1.1%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	175*2	6.5%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表１２－１　コミュニティ福祉学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数[注1)]	平均値[注2)]	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	1,757	4.17	0.77
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）*	1,156	1.20	2.08
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	1,762	4.28	0.78
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	1,761	4.20	0.87
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	1,762	4.26	0.83

注 1）回答者数は延べ人数
注 2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2 の単位は「時間」

表１２－２　コミュニティ福祉学部（回答割合）

全有効回答者数　1,764

設　問　項　目	回答者数[注1)]	割合[注2)]
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	1,750[*1]	99.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,067	60.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	169	9.6%
③パワーポイント	715	40.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	505	28.6%
⑤シラバス	106	6.0%
⑥上記にあてはまるものがない	122	6.9%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	406[*2]	23.0%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	1,546[*1]	87.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	240	13.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	82	4.6%
③パワーポイント	118	6.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	93	5.3%
⑤シラバス	39	2.2%
⑥上記にあてはまるものがない	1,082	61.3%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	292[*2]	16.6%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	1,757[*1]	99.6%
①自分にとって新しい考え方・発想	989	56.1%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,188	67.3%
③自分で調べ考える姿勢	374	21.2%
④学問的興味	656	37.2%
⑤上記にあてはまるものがない	37	2.1%
Ⅲ2　Ⅲ1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	104[*2]	5.9%

注 1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に 1 つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注 2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表１３－１　現代心理学部（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	754	4.14	0.70
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	535	1.15	1.97
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	756	4.35	0.71
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	754	4.25	0.80
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	753	4.27	0.73
Ⅳ　学部等による設問			
Ⅳ1【オンライン／オンデマンドで受講した場合のみ対象】このオンライン授業の運営は適切になされた	739	4.57	0.56
Ⅳ2【対面式で受講した場合のみ対象】この授業の設備・環境に満足している	265	4.23	0.79

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表１３－２　現代心理学部（回答割合）

全有効回答者数　756

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	751*1	99.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	439	58.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	79	10.4%
③パワーポイント	275	36.4%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	298	39.4%
⑤シラバス	51	6.7%
⑥上記にあてはまるものがない	50	6.6%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	154*2	20.4%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	632*1	83.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	81	10.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	28	3.7%
③パワーポイント	31	4.1%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	27	3.6%
⑤シラバス	17	2.2%
⑥上記にあてはまるものがない	484	64.0%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	82*2	10.8%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	750*1	99.2%
①自分にとって新しい考え方・発想	475	62.8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	462	61.1%
③自分で調べ考える姿勢	113	14.9%
④学問的興味	339	44.8%
⑤上記にあてはまるものがない	7	0.9%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	27*2	3.6%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表１４－１　全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	11,830	4.24	0.76
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	7,982	1.32	2.13
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	11,862	4.33	0.76
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	11,835	4.24	0.85
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	11,837	4.29	0.84
Ⅳ　学部等による設問			
Ⅳ1【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた	3,992	4.32	0.82
Ⅳ2【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた	3,992	4.04	0.91

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表１４－２　全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（回答割合）

全有効回答者数　11,883

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	11,749*1	98.9%
①配付資料（授業のレジュメなど）	6,440	54.2%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,305	11.0%
③パワーポイント	4,811	40.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3,849	32.4%
⑤シラバス	829	7.0%
⑥上記にあてはまるものがない	884	7.4%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	2,347*2	19.8%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	10,469*1	88.1%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,713	14.4%
②板書（電子媒体のものを含む）	635	5.3%
③パワーポイント	693	5.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	513	4.3%
⑤シラバス	295	2.5%
⑥上記にあてはまるものがない	7,351	61.9%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	1,703*2	14.3%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	11,827*1	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	7,376	62.1%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	6,366	53.6%
③自分で調べ考える姿勢	2,402	20.2%
④学問的興味	5,221	43.9%
⑤上記にあてはまるものがない	238	2.0%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	791*2	6.7%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に１つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表１５－１　全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（平均値）

設　問　項　目	回答者数注1)	平均値注2)	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	17,988	4.47	0.66
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	11,256	1.78	2.20
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	18,078	4.47	0.71
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	18,042	4.39	0.79
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	17,968	4.35	0.79
Ⅳ　学部等による設問			
Ⅳ1　宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った	18,020	4.30	0.78
Ⅳ2　宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた	18,014	4.29	0.85
Ⅳ3　授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた	17,984	4.25	0.82
Ⅳ4　その言語の学習を継続したいと思うようになった	18,073	4.14	0.90

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表１５－２　全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（回答割合）

全有効回答者数　18,106

設　問　項　目	回答者数注1)	割合注2)
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	17,838*1	98.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	5,484	30.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	4,084	22.6%
③パワーポイント	7,423	41.0%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	3,593	19.8%
⑤シラバス	2,103	11.6%
⑥上記にあてはまるものがない	2,658	14.7%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	3,560*2	19.7%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	16,065*1	88.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,361	7.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	908	5.0%
③パワーポイント	674	3.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	581	3.2%
⑤シラバス	603	3.3%
⑥上記にあてはまるものがない	12,813	70.8%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	2,153*2	11.9%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	17,938*1	99.1%
①自分にとって新しい考え方・発想	7,409	40.9%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	8,319	45.9%
③自分で調べ考える姿勢	7,255	40.1%
④学問的興味	4,431	24.5%
⑤上記にあてはまるものがない	1,011	5.6%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	1,621*2	9.0%
Ⅳ　学部等による設問		
Ⅳ4　この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】	17,968*1	99.2%
①読む力	9,033	49.9%
②書く力	7,586	41.9%
③聞く力	7,569	41.8%
④話す力	9,015	49.8%
⑤プレゼンテーションをする力	3,285	18.1%
⑥ディスカッションをする力	4,597	25.4%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に１つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表１６－１　学校・社会教育講座（平均値）

設　問　項　目	回答者数[注1)]	平均値[注2)]	標準偏差
Ⅰ　学生の学習姿勢			
Ⅰ1　この授業に積極的に参加した	1,032	4.33	0.68
Ⅰ2　この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	743	1.22	1.56
Ⅱ　教員の授業改善に向けて			
Ⅱ1　各回の授業内容は明確だった	1,034	4.41	0.71
Ⅱ2　教員の伝え方はわかりやすかった	1,034	4.34	0.78
Ⅲ　学生が授業に期待するもの			
Ⅲ3　この授業を受けて満足した	1,037	4.39	0.73

注1）回答者数は延べ人数
注2）平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出
(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)
*I2の単位は「時間」

表１６－２　学校・社会教育講座（回答割合）

全有効回答者数　1,039

設　問　項　目	回答者数[注1)]	割合[注2)]
Ⅱ　教員の授業改善に向けて		
Ⅱ3　この授業でよいと思った点はありますか【複数選択可】	1,031*1	99.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	710	68.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	139	13.4%
③パワーポイント	431	41.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	198	19.1%
⑤シラバス	53	5.1%
⑥上記にあてはまるものがない	72	6.9%
Ⅱ4　Ⅱ3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	188*2	18.1%
Ⅱ5　この授業で改善すべきだと思った点はありますか【複数選択可】	889*1	85.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	107	10.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	45	4.3%
③パワーポイント	47	4.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	64	6.2%
⑤シラバス	17	1.6%
⑥上記にあてはまるものがない	658	63.3%
Ⅱ6　Ⅱ5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	149*2	14.3%
Ⅲ　学生が授業に期待するもの		
Ⅲ1　この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】	1,033*1	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	586	56.4%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	750	72.2%
③自分で調べ考える姿勢	218	21.0%
④学問的興味	357	34.4%
⑤上記にあてはまるものがない	23	2.2%
Ⅲ2　Ⅲ1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	71*2	6.8%

注1）回答者数
*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数
*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数
上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数
注2）割合の算出
回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

2021 年度「学生による授業評価アンケート」報告書

2022 年 9 月発行
編集　立教大学 大学教育開発・支援センター
発行　立教大学 大学教育開発・支援センター
〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
TEL　03-3985-4624　　FAX　03-3985-4615
https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html
e-mail　cdshe@rikkyo.ac.jp